

No.

ネパール王国  
人口家族計画プロジェクト  
評価調査団報告書

1991年2月

国際協力事業団  
医療協力部

16  
182  
1CS

医 業
J R
91 - 09



ネパール王国  
人口家族計画プロジェクト  
評価調査団報告書



1991年2月

国際協力事業団  
医療協力部

国際協力事業団

26920

# 目 次

1. 評価調査団派遣概要.....	1
(1) 調査団派遣に至る経緯.....	1
(2) 調査団の構成・日程等.....	1
2. 調査の概要.....	5
(1) 調査方針等について.....	5
(2) 調査の結果について.....	6
(3) 今後のスケジュール.....	6
3. 個別報告.....	7
(1) 総括報告.....	7
(2) 母子保健報告.....	10
(3) 衛生行政報告.....	11
4. 別添資料.....	13
(1) Minutes of the Joint Evaluation .....	14
(2) 総括資料及び投入実績資料.....	25
(3) 関係写真.....	25



# 1. 評価調査団派遣概要

## (1) 調査団派遣に至る経緯

昭和60年10月から開始された本プロジェクトは、モデル地区（2地区）の設定による家族計画・母子保健活動の拡充と、要員の育成を主とする協力を行ってきたが、本年10月に、5年間の協力期間終了を控えている。

本年3月の巡回指導調査時には、残された協力期間でプロジェクトの成果をいかにまとめあげるか、専門家チーム・ネ側関係者と協議し、その具体的な実施方法につき指導・助言を行なったが、その際にネ側より協力機関延長の要請が出されている。

今回の評価調査団の派遣はこれまでの協力の成果を総合的に評価し、今後の協力を資するため、派遣されたものである。

## (2) 調査団の構成・日程等

### 2-1 調査団の構成

平山 宗宏	(総括)	母子愛育会	日本総合愛育研究所所長
持田 兆子	(母子保健)	母子愛育会	母子愛育推進本部長
原 徳壽	(衛生行政)	厚生省	健康政策局計画課 計画専門官
後藤 典雄	(技術協力)	国際協力事業団医療協力部	医療協力特別業務室長代理

### 2-2 調査の日程

日順	月/日	行程及び調査日程
1	7/27(金)	東京発 11:00 TG 641 バンコック着
2	7/28(土)	バンコック発 10:55 TG 311 カトマンドゥ着 12:55 専門家との打合せ 15:00～
3	7/29(日)	表敬訪問及び調査趣旨説明(面会者は以下の各人) 10:00～ Dr. K. R. Pandley, Chief, FP/MCH Division, MOH Dr. Bhattarai, Chief, Training Division, MOH Mr. S. J. Rana, Add. Minister, MOH

		Dr. Mathura P. Shrestha, Minister, MOH Dr. Kokila Vaidya, Director, General Regional Directorate 専門家との打合せ
4	7/30 (月)	Nara Health Post, District Public health Office, Kavre District 視察 10:00~ JICA事務所打合せ 16:00~
5	7/31 (火)	インパクト・サベィ中間報告打合せ 10:00~ 日本大使館表敬 12:00~ Health Materials Center, Tribhuvan Univ. 訪問 15:00~
6	8/1 (水)	FP/MCH 各課長との協議 12:00~ Coordination Committee 協議 15:00~
7	8/2 (木)	保健省関係者との打合せ 10:00~ Minutes 署名 16:30~ 調査団主催パーティ 18:30~
8	8/3 (金)	JICA事務所報告 10:00~
9	8/4 (土)	カトマンドゥ発 13:55 TG 312 バンコック着 18:15
10	8/5 (日)	バンコック発 10:30 TG 750 東京着 18:25

2-3 主要面会者

1	Pro. Mathura Prasad Shrestha	Honourable Health Minister
2	Mr. Bashdev Predhan	Health Secretary
3	Mr. S. J. Rana	Additional Secretary
4	Dr. Ram Bhadra Adiga	Chief, Public Health Division



5	Dr. Shyam Prasad Bhattarai	Chief, Manpower Development and Training Division
6	Dr. B. D. Chataut	Chief, Planning Division
7	Dr. Suniti Acharya	Chief, EPI Division
8	Ms. Bimala Maskey	Chief, Nursing Division
9	Dr. Kokila Vaidya	Director, Center Regional Health Directorate
10	Mr. Mooniswor Mool	Section Officer CRH Directorate
11	Dr. Kalyan Raj Pandey	Chief, FP/MCH Division
12	Mr. Prem Krishna Shrestha	Chief, Finance Section
13	Dr. Mahendra Keshari Kshetri	Chief, Community Health Development Section
14	Dr. Heera Shrestha	Chief, Surgecal Section
15	Mr. Ugra Narayan Karna	Assistant Administrator
16	Mr. Jeev Krishna Shrestha	Chief, MCH Section
17	Ms. Sushida Risal	Senior Public Health Nurse
18	Dr. Bijaya Manandhar	Chief, Training Section
19	Dr. Jayanti man Tuladhar	Chief, Evaluation Section
20	Mr. Puspa Shrestha	Staff, Evaluation Section
21	Mr. Surendra Bahadur Amatya	Chief, Administration Section
22	Mr. Ganesh man Shrestha	Chief, Supply Section
23	Mr. Surendra Raj Gautam	Section Officer
24	Mr. Hari Bandi Kshetri	Acting Chief, IEC Section
25	Mr. Mukunda Vaidya	Section Officer, IEC Section
26	Mr. Baikuntha Man Shrestha	Staff, UEC Section
27	Mr. Upendra Prased Aryal	Staff, IEC Section
28	Mr. Rewanta Man Shrestha	Staff, IEC Section
29	Mr. Prakash Bhattarai	Staff, IEC Section
30	Mr. Mohan Shrestha	Staff, FP/MCH Division
31	Mr. Mohan Kumar Joshi	District Public Health Officer (kavre)
32	Dr. T. B. Khatri	Ministry of Health
33	Dr. Achyut Mani Acharya	Ministry of Health
34	Mr. Madhav Joshi	Ministry of Health
35	Pro. Hemang Dixit	Institute of Medicine
36	Dr. Ramesh Adhikari	Institute of Medicine

- |    |                          |                             |
|----|--------------------------|-----------------------------|
| 37 | Dr. Puspa Raj Sharma     | Institute of Medicine       |
| 38 | Mr. Madhup Dhungana      | Executive Director, New ERA |
| 39 | Mr. Ashok Shrentha       | Staff, New ERA              |
| 40 | Mr. Jagat Bahadur Basnet | Staff, New ERA              |

J I C A 事務所

永友次長

大山所員

日本国大使館

有地大使

田中書記官

F P / M C H プロジェクト派遣中専門家

国分リーダー

綿引専門家

碓調整員

## 2. 調査の概要

### (1) T/Rについて

当調査団の任務は以下のとおりである。

#### (1) 本プロジェクトの総合的評価を行なう。

\*インパクト・サーベイの結果、プロジェクトの開始時に行なった基礎調査時インデックスにどのような変化があったかを測定する。

\*これまで5年間にわたり実施された本プロジェクトの協力計画の妥当性を検討する。

\*プロジェクト実施期間内のインプット/アウトプットの評価を行なう。

#### (2) 先方政府から延長の要請がでているところ、評価を行なった結果、妥当とみとめられた場合にはプロジェクト期間の1年間延長につき、両国政府に勧告することに同意すると共に、延長期間における協力内容について協議を行なう。

#### (3) 上記(1)及び(2)について、ミニッツに結果をとりまとめ、延長に係るR/Dの交換はJICAネパール事務所長とネパール側責任者との間で、とりかわすことができる。

### 1-2 問題点

(1) インドによる経済封鎖によりプロジェクト全体の進捗が遅れていたが、更に、民主化運動が活発化したことにより、遅れが助長されている。

(2) ネパール側からプロジェクトの成果を活かし、協力対象地域を拡大し更なる協力継続の要望がある。

(3) ネパール国保省の機構改革が7月中旬に実施されることとなっており、家族計画・母子保健部門の位置付けが最終的に確定することになっているが、体制は充分なものとなっているか。

### 1-3 対処方針

上記問題点を踏まえて以下の通りの対処方針をもって調査を行うこととなった。

(1) 評価にあたっては、外的要因によるプロジェクトの遅れを考慮すること。

(2) 延長を行なう妥当性が有ると認められた際には後れた分野について当初設定した目標に達するよう努力するため1年間の協力期間延長により対応することとする。ただし、先方から要請のある協力対象地域の拡大は行なわず、更なる協力については延長期間内の状況を踏まえ、判断することとする。

(3) 家族計画・母子保健部門の起趨について、情報収集をし、公衆衛生部に完全に統合されるか、ある程度独立した部門として残るか調べる。

## (2) 調査の結果について

1-1 本プロジェクトは2つのモデル地区（カブレ・ダヌーシャ郡）を設定し、コミュニティーをベースとした母子保健を統合した家族計画の強化を図ると共に地域保健の向上に貢献することを目的とし、1985年10月7日から5年間の期間をもって実施されている。この間の実績は別添のとおりである。

2-2 これまで実施した協力について現地観察、各セクション・チーフとの協議等を実施、ネパール側と合同で評価を行ない、結果をミニッツとして取りまとめた。評価の結果は、一部においておおむね当初の目標を達成しているものの、インドの経済封鎖及び民主化運動の活発化のため業務が遅れぎみとなっていたが、遅れている分野は以下のとおりである。

### ① 母子保健活動

ヘルスポストにおけるMCH活動

オペレーションマニュアルの有効活用が期待される。

### ② IEC活動

AVルームがほぼ完了しており、教育用ビデオが制作されれば、AVバンの活用と共に、効果的な実施が行なわれる。

前述のように、本プロジェクトは実施上、大きな問題を抱えてきたきたところであるが、この国の困難な実情の中では、まずまずの成果を収めたと考えられたが、これから遅れている分野につき当初の目的を達するべく、更に1年間の協力が必要であるとしてこの旨、両国政府に対し勧告した。（ミニッツ参照）。

## (3) 今後のスケジュール

現行R/D期間内にJICAネパール事務所長とネパール側との間で延長R/Dを取り結ぶ。

### 3. 個別報告

#### (1) 総括報告書

##### 1-1 はじめに

ネパール王国政府との間の家族計画・母子保健に関する協力プロジェクトは、1985年10月にRDが結ばれ、5年間にわたる事業が開始された。本90年10月にこのプロジェクトが終了するに当たり、われわれは現在までの事業の成果を評価し、今後の方向をも検討する目的で派遣された。われわれは在ネパールの専門家チームと協議するとともに、ネパール政府担当者とも協議して本事業を円滑に完結させる努力を行なった。後述するようにネパール国は内外の困難な状況下にあるが、われわれはネパール担当者の熱意と在ネ専門家チームの努力に支えられて、所期の目的を達成することが出来たので報告する。

##### 1-2 プロジェクトの背景と概要

1985年に締結されたRDに盛り込まれた本プロジェクトの内容と進行状況の概要は、添付資料1のごとくであった。すなわちその大筋は、JICAは専門家を派遣し、地域における母子保健を向上させるため、2つのDistrictをモデル地域に選び、その地区内のヘルスポストに医薬品、健診用具等を供給するとともに、それぞれ1つずつのヘルスポストを新築して地域におけるモデル的活動を展開することにあつた。また保健教育普及のために必要なIEC用機材の供与と作成、地域における母子保健担当者に対する研修等も併せて計画、実施された。またネパール国の母子保健行政関係者の日本における研修も行われた。

しかし派遣専門家の熱意にも関わらず、この間ネパール国のおかれた困難な状況によって、プロジェクトの円滑な進行が妨げられる事態にも遭遇した。その状況は以下のごとくである。

- 1) ネパール国は極度に貧困な国家財政のため、多くの保健行政が国家機関や外国の援助に頼っていた実状から、保健省の機構が援助の受け入れに便利なプロジェクト制になっており、指揮・統括システムが非能率的であった。しかしこの状態を改善するため、本プロジェクト開始後、ネパール保健省では大幅な組織・機構改革が始められ、このため関係者の頻繁な交代や不安による士気の低下を招いた可能性がある。最終的には本年7月に至りネ国では保健省の組織改正に踏み切り、従来の外国援助に基づくプロジェクト毎の体制を改め、保健省の直轄による縦型のシステムとした。これはわが国の行政システムに共通しており、われわれとしては理解し易い形といえる。
- 2) ネパール国農村部ではとくに女性の識字率が低く、また貧困であることも加わって、保健教育やボランティア組織の育成に困難な点があり、また道路の整備がきわめて悪く、特に雨期は交通が困難になる、などの活動に不利な条件が多く、当初の予定

におくれが生じがちであった。

3) ネパール国とインドの紛争による国境封鎖のため、協力機材の破損や遅延がおり、1989年4月から12月までの間はガソリン不足から公用車の運行ができない状況があつて、専門家の派遣を含め、事業の実施に大きな支障があつた。

4) さらに1990年はじめ頃よりネパール国ではいわゆる民主化運動が活発となり、国内事情にはかなりの混乱があつた。前回の巡回指導団の派遣に際し、本年3月30日に表敬したタパ保健大臣もその翌日に交代するという状況であつた。巡回指導団の帰国後におこつた議会体制の改革が行政機構に影響を与えるか、さらには王政が揺るがないかなど、予測困難な政治的不安定さが、本プロジェクトの仕上げに悪い影響を与えないか心配である。ネ国はこの民主化運動の今後のスケジュールとしては、近々行われる憲法の改正と、本年(1991年)に予定されている選挙があり、これらの結果が今後のネパールの方向を決定づけることにならう。

以上のような続発するマイナス因子はあつたものの、プロジェクトそのものは関係者の熱意に支えられて進行中である。とくに残る2カ月の間に完了を予定している次項に述べるプログラムは、よほどの政治的混乱が起こらない限り実施できるものと考えられる。

### 1-3 本プロジェクト事業実施の実情

われわれはモデル地区の1つのナラヘルスポストを訪問視察する機会を得た。ナラ村では独立した建物のヘルスポストと医薬品の常備を村をあげて喜んでいる状況をよく知ることができ、また保健教育実施の場面も見学することが出来た。すなわち、雨季の下痢症流行に当たり、村自治団体は小学校児童による健康教育のプログラムを企画し、村内で児童の行進を行ってきれいな水の飲用や下痢の際の補液方法のPRを行い、たまたま訪問したわれわれの参加を求める積極性を示した。またヘルスポストの勤務者の士気も高いものと判断できた。同村の赤十字支部では、たまたま本プロジェクトに関連して東邦生命社会福祉事業団による飲料水普及事業や環境衛生向上計画にあわせた自主活動に取り組み始めており、好ましい協力事業も始められていた。郡公衆衛生局(DPHO)の報告によれば、各ヘルスポストへの補給用の医薬品は充分量保管されており、管理状況もよいと判断された。なおワクチンはDPHOの冷凍庫(製氷機をかねる)と冷蔵庫に保管されており、各ヘルスポスト等へは氷(保冷パック)を入れたアイスボックスで輸送していたが、このアイスボックスで数日間の保管が可能である。

保健省の建物1階のAVルームの改造工事は順調に進捗しており、予定通り完成できるものと見受けられた。

### 1-1 本プロジェクト終了までの実施予定プログラム

本プロジェクトは、当初の予定および中間段階で再構築されたプログラムに従い運

當されてきたが、残された半年間に実施されるべき事業として、JICA 専門家と協議の結果次の如くとりまとめられた。この内容はネパール側責任者との間でも合意されている。

#### 1) 母子保健活動

ヘルスポストにおけるMCH活動をさらに活性化する。内容としては、

- a. MCHクリニックサービスの充実
- b. MCH関連の情報収集方法の発展
- c. ナラ・ヘルスポストにおける地域保健担当者に対する研修内容をふまえたMCH実施の手引（オペレーションマニュアル）の作成

#### 2) IEC活動

- a. 保健省ビル内のAVルーム工事の完成と器材の設定
- b. AVルーム完成次第、2本を目標に保健教育用ビデオを制作する。そのテーマとしては、MCHの6つのコンポーネント（COBINA\*）の中から1つと、ナラヘルスポストの活動状況の紹介が計画されている。

\*: Child spacing, oral rehydration therapy, Basic neonatal care, Immunization, Nutrition, Acute respiratory infection

- c. ビデオバンを有効に活用するための管理と利用計画

#### 3) インパクトサーベイの結果の解析と評価。

以上の計画のうち1)については、ナラヘルスポストにおける研修事業を、国分専門家を中心として整理し、地元大学の研究所の協力を得てネ語に翻訳して活用する。2)については、AVルーム完成後直ちにAV専門家の短期派遣を要請して実施する。3)についてはすでに地元のコンサルタント会社による調査が完了しており、縮引専門家が担当して取りまとめ中である。2種類のバンの管理については、ネパール側も当然のこととして万全を期している。

今後残された2カ月間の本プロジェクトの仕上げについては、碇調査員も自信を持っており、本調査団の帰国後にとりまとめ得ることは確実である。

#### 1-5 今後の見通しについて

前述のように、本プロジェクトは実施上の難問を抱えていたが、この国の困難な実情の中としては、まずまずの成果の期待できるところまで来た、と考える。ことに最近半年間の「追込み」が取りまとめに大きく役だっていると考えられる。モデル地区から他の地区、さらには全国的な波及効果を現在直ちに期待することは、ネパール国の経済的基盤からいって不可能な状況にあり、モデル地区でのモデル的MCH活動の始動が精いっぱいであってもやむを得ないといえる。

ネパール国としても、例えば本プロジェクトの目標のひとつである母親を中心とする地域ボランティア活動の重要性に気づいてこれを国として取り上げ、1989年7月以降19

83年までの4年間に、全国75のDistrictに地域保健ボランティア（Community-based health volunteer）を置く計画を立てており、その実現が期待される。この計画の困難性は謝金の給付なしに実行できるか等、経済問題と住民の生活水準の問題がからむ点にある。

本プロジェクトのネパール側担当者は、多少の食い違いはあっても熱心に対応しており、こぞって今秋での打ち切りを恐れている。少時の余裕を得て次のプロジェクトへの発展を計画したいという意欲はよく感じられた。

われわれとしては、この国の実情を理解し、把握した上で、ネパール国の母子の健康と福祉に貢献する最良の道を探して行きたい。

以上の実情をふまえて、本調査団は別添のごときミニッツをネパール国側責任者と取り交わした。すなわち、今後1年間の協力期間延長を行ってその間のネ国の状況を観察しつつ、これまでのやむをえない事情により遅れた事業の進展を図り、その上でその後の協力について判断をしたい、という方針である。正式な1年間の協力期間の延長に関するRDの締結については、今回の5年間の協力期間の完結の時点で、在ネパールJICA事務所長とネ国責任者の間で取り交わして頂きたい。

## (2) 母子保健

### 2-1 はじめに

ナラ村ヘルスポストを見学した7月30日、付近の小学校の子どもたちにより「下痢をしない運動」の趣旨による、デモ行進があり参加した。

ナラ村は、傾斜地に村落が点在している。幅1m足らずの坂道を登ったり、下りたりしているうちに、道の真ん中のここかしこに、軟度50%位の人糞が落ちていた。つま先立ちで、それを避けながら、石のゴロゴロした凸凹道を歩くということは、たいへんな作業である。精神統一をし、歩くことに専念しないと、臭気ともどもその「モノ」が足につく。

子どもたちの、「下痢をしない運動」のデモ行進の道すじに「これは何たること」と、大人の行為に腹がたった。地域の健康づくりの起点は、まず、地域住民が清潔と不潔の認識を持つことにあると思う。日常生活の中で自他ともに認める清潔の意識は、「手を洗う」ということである。簡単にできる手洗いは、他人の目にもふれ、本人も体験したという満足感がある。清潔ということを大人に説いてみても、あまり効果は期待できない。むしろ、子どもたちに「手洗いは何故する。よりも、こうするものだ。」と理屈抜きで教えた方が、効果が上がるのではないだろうか

そのためには、次の方法が考えられる。

### 2-2 これからの援助

- 1) ヘルスポスト付近の小学校に次の設備をする—JICA援助の2か所—



a) 手洗い場所の設置

当該場所に石けん・タオル等の継続的供給方法を検討する

b) 飲料水－浄化設備－

1年間を通じて－きれいな水が飲める小学校－をPRし学校教育の普及につなげる。

c) 便所－厚生省式改良便所（3槽式）

終末処理－農作物の肥料として活用するため、その指導をする専門家を派遣する。

2) ヘルスポストの事業内容に学校保健を大きな柱として加える。

a) 小学生に対する健康教育用の器材、テキスト等の開発、供与

b) 小学校とヘルスポストとの連携を持ち、健康教育を教科に組み込み、さしあたり、ヘルスポスト職員が担当する

以上の援助によりCHV活動の活性化も期待できる。

1, 小学校に通学する子どもたちが、CHVとヘルスポストとの連絡役をする

2, CHVが文盲であっても、文字を覚えた子どもたちが、情報伝達の役割をする

注：かつて愛育班活動は小学校を拠点にしていた。それは班員・役場・保健婦の相互連携の役割を担い、大きな成果をあげた。

2-3 JICAへ提言

1) 派遣する専門家－保健婦－について

a) 地域母子保健活動の経験者であること

b) 地域母子保健プログラム－研修を含む－の企画ができ、かつ運営について十分助言ができること

c) 都道府県において、行政経験があることが望ましい

d) 年齢、経験等において、間隔のある2人制とし事業に間隙をつくらないう、交代時をづらすこと

2) 村単位に海外協力隊員を配置することが望ましいが、さしあたり前記2か所に、保健婦または、地域母子保健活動経験者を置く

3) 子どもに対する健康教育を戦略として組み込む

(3)衛生行政報告

3-1 行政体制上の問題点

世界の民主化の流れに同期してネパール王国においても、民主化運動が盛んとなった。このため、過去1年余の間行政組織の大幅な変更が行われ、数十年間保たれてきたパンチャヤット制が廃止され、村組織となった。

さらに、現在憲法改正案が起草中であり、国家の基盤が今後どの様に変革されてい

くか不透明であり、長期にわたった国家計画を立案することは非常に困難な現状といわざるをえない。

### 3-2 社会基盤の問題点

母子保健、特に感染症対策として、安全な水の確保は欠くことのできないものである。この点で、ネパール国は、非常に立ち遅れているといえる。手を洗う習慣を作るにも、身近なところに水が確保されなければならないが、農村部のほとんどで生活用水を川からの汲み水に頼っている現状である。まず、飲用に適した水道の普及を図らねば、感染症の減少の達成は困難である。衛生の概念の普及とともに、これらの社会基盤の整備も必要である。

### 3-3 医療水準の問題点

人口2千万人に近い国において、医師数が千人にみたないばかりでなく、医師のほとんどが首都カトマンズに在住している。地方においては、医療を受けるという機会も少なく、また、医療を受けるという考え方もないのではないかと見受けられた。保健部門の発展には、それを裏打ちする医療の供給体制が不可欠であり、医師を始めとする医療スタッフの確保とともに、医療施設の整備が必要であると考えられる。

### 3-4 プロジェクトの今後の進め方

今回の5年間のプロジェクトについては、上で述べた問題点、特に1で述べた行政上の問題点から、当初計画からはかなり遅れて期限に至ることになる。しかしながら、ネパール国の当局者の熱意は十分感じられ、今端緒についた部分もあることから、政治体制の安定化が図られるであろう今後1年間の延長が必要であると考えられる。その1年間で、更なる延長及び拡大については、検討すべきである。また、医療を始め、社会基盤の整備についても総合的に援助がかなえば、保健問題にも進展がみられるのではないかと考える。

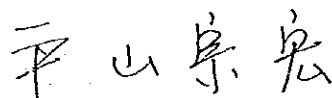
MINUTES OF THE JOINT EVALUATION MEETING BETWEEN  
THE EVALUATION TEAM OF JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY  
AND THE AUTHORITIES CONCERNED  
OF HIS MAJESTY'S GOVERNMENT OF NEPAL

The Japanese Evaluation Team, organized by the Japan International Cooperation Agency ( hereinafter referred to as "JICA" ) and headed by Dr. Munehiro Hirayama, Director of Nippon Aiku Research Institute for Maternal Child Health and Welfare has been dispatched to the Kingdom of Nepal from 29th July to 4th August, 1990 to evaluate the implementation and achievements of the Family Planning and Maternal Child Health Project ( hereinafter referred to as "the Project" ).

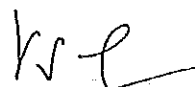
The Evaluation Team had a series of discussions with Nepalese authorities concerned in respect of the five-year technical cooperation for the Project.

The result of the discussion is attached hereto.

Kathmandu, 2nd August, 1990.



DR. MUNEHIRO HIRAYAMA  
Leader, The Evaluation Team  
Japan International Cooperation  
Agency.



DR. KALYAN RAJ PANDEY  
Division Chief,  
Family Planning and Maternal  
Child Health Division,  
Ministry of Health

ATTACHMANT

I. MEMBERS OF THE DISCUSSION PANEL.

NEPALESE SIDE:

DR. KALYAN RAJ PANDEY	CHIEF, FP/MCH DIVISION.
DR. S. P. BHATTARAI	CHIEF, MANPOWER DEVELOPMENT AND TRAINING DIVISION.
MR. S. R. KUNWAR	ACTING CHIEF, EPI DIVISION.
DR. KOKILA VAIDYA	DIRECTOR, RHD CENTRAL.
MR. SRIBATSA SHRESTHA	ACTING CHIEF, PLANNING DIVISION.
DR. RAM BHADRA ADIGA	CHIEF, PUBLIC HEALTH DIVISION.
MR. JEEV KRISHNA SHRESTHA	CHIEF, MCH SECTION.
MS. SUSHILA RISAL	SR. PHN, MCH SECTION.

JAPANESE SIDE:

EVALUATION TEAM:

DR. MUNEHIRO HIRAYAMA	TEAM LEADER DIRECTOR, NIPPON AIKU RESEARCH INSTITUTE FOR MATERNAL CHILD HEALTH AND WELFARE.
-----------------------	---



VST

MS. YOSHIKO MOCHIDA

DEPUTY DIRECTOR, HEAD OFFICE  
OF ADVANCEMENT OF AIKU  
ACTIVITIES, ASSOCIATION FOR  
MATERNAL CHILD HEALTH AND  
WELFARE.

DR. NORIHISA HARA

SENIOR OFFICER, HEALTH  
PLANNING DIVISION, MINISTRY  
OF HEALTH AND WELFARE.

MR. NORIO GOTO

DEPUTY DIRECTOR, PUBLIC  
HEALTH AND FAMILY PLANNING  
DIVISION, MEDICAL  
COOPERATION DEPARTMENT,  
JAPAN INTERNATIONAL  
COOPERATION AGENCY (JICA).

EXPERTS:

MS. KEIKO KOKUBU

TEAM LEADER AND  
MCH EXPERT.

MR. NOBUYOSHI WATAHIKI

PUBLIC HEALTH EXPERT.

MR. KENJI IKARI

PROJECT COORDINATOR



hs

## II. Background of the project.

His Majesty's Government, Ministry of Health, FP/MCH Project and JICA signed the record of discussion on 6th October, 1985 to begin different program activities for five years period. This five years period has been divided into four stages; Preparation, Improvement, Intensification, and Evaluation/ Expansion stages.

## III. Objective and Program Components.

### III-1. Objective:

This project aims at strengthening and expanding community-based family planning and maternal and child health services as well as promoting community development activities in the kingdom of Nepal with emphasis on the activities in the following two model areas.

- A. Kavrepalanchok District.
- B. Dhanusha District.

### III-2. Program Components:

- 1) Improvement and intensification of MCH services activities at the Health Posts.
- 2) Community involvement.
- 3) IEC (Information, Education and Communication) Activities.
- 4) Data Collection System.
- 5) Middle-level Trainees' Training.

## IV. Achievement of the project activities.

### IV-1. Japanese Expert: ( Oct, 1985 - Oct, 1990 )

Long-term Expert:	No.of Experts
Maternal Child Health Expert-	2
Public Health Expert -	1
Project Coordinator -	2
Short-term Expert:	
Short-term Experts(IEC) -	3



rs

#### IV-2 Provision of Equipments:

Various medical and clinical equipments including medicines were provided to improve and strengthen the FP/MCH services at the central, district and community levels. Also the IEC equipments like Video-van, Film projector, Slide projector and Cassette recorder etc. were provided for the extension and expansion of IEC activities. (Please refer to the attached list 1)

#### IV-3 Training:

To develop manpower skill mainly on MCH service components for HMG health related officers, various trainings were conducted in Japan. Moreover, with a view to increase community awareness on the importance of MCH care, local training (Middle-level Trainees' Training) were also conducted for paramedicals and other health related field workers. To strengthen the IEC activities, trainings were provided to increase the efficiency of the IEC staffs assigned at the central as well as district level. (Please refer to the attached list 2).

#### IV-4 Production of IEC Materials:

In order to improve and strengthen the IEC activities, different types of Posters, Flash-cards, Booklets and Slides etc. were produced and distributed both to the central and district level. (Please refer to the attached list 3)

#### IV-5. Technical Exchange Program:

Three Nepalese counterparts visited the integrated FP/MCH Project of the Philippines to exchange knowledge and skills with Philippines counterparts in March, 1987 and three Nepali counterparts participated seminar workshop on FP/MCH integrated strategies: sharing of country experiences in the Philippines in September, 1988.

#### IV-6. Construction of Health Post:

1. Construction of Nala Health Post in Kavrepalanchok District.  
(Completion: July, 1988)
2. Construction of Dhanusa Dham Health Post in Dhanusha District. (Completion: June, 1989)



vs

#### IV-7. Baseline Survey:

##### First Baseline Survey

In order to review and analyse the existing data and information on MCH/FP activities, First Baseline Survey was conducted from 6th Dec, 1985 to 25th Dec, 1985.

##### Second Baseline Survey

In order to establish health indicators and utilize these indicators for this project design, activities and evaluation, Second Baseline Survey was conducted from 7th Dec, 1986 to 14th Jan, 1987.

#### IV-8. Impact Survey:

##### Objective:

To evaluate the effectiveness of health related intervention programme and also about the use of IEC materials and middle level trainees' training etc., conducted by JICA/HMG FP/MCH Project in Kavre district.

Period of work: 25th March, 1990 - 31st August, 1990.

#### IV-9. The renovation of Audio-Visual Rooms:

##### Objective:

To intensify community health activities through development of teaching materials and video productions.

Period of work: March, 1990 - August, 1990.

(F)

ks



## V. Conclusion and Recommendation.

Both parties recognized that most of the program targets which were set in the beginning stage of the project gave satisfactory results in course of having discussion with Nepali concerned authorities and project site observation.

In spite of untiring efforts to implement various activities on FP/MCH, some parts of them still remained in incomplete stages, especially video production to disseminate information on MCH, expansion of MCH services activities from pilot area to model area and sustainability of activities due to economic and political difficulties.

Therefore, both parties agreed to recommend their respective governments to continue the project period for another one year so that the above-mentioned incomplete targets could be fulfilled as well as the follow-up activities could be undertaken simultaneously for after-care of the already completed activities.



RS

## MAIN EQUIPMENT

ITEM	QUANTITY/SET
1986	
1 Infant Scale	20
2 Platform Scale	20
3 Measuring Rod	20
4 Delivery Instrument set	50
5 Suture Instrument Set	50
6 Microscope	1
7 Incubator	4
8 Suction Pump	4
9 Refrigerator	6
10 Land Cruiser	3
11 Photo Copiers	1
12 VHS Video Editing Machine	2
13 Video Editing Controller	1
14 Monitor(10inch)	2
15 VHS Video Cassette Recorder	3
16 Monitor(21inch)	1
17 Stabilizer	3
18 VHS Video Camera	1
19 16mm Film Projector	2
20 Slide Projector	4
1987	
21 X-ray apparatus	1
22 Infant Scale	10
23 Weighing scale	10
24 Obstetric delivery table	3
25 Diagnostic set	30
26 OHP Projector	4
27 Slide Projector	8
28 16mm Film Projector	4
29 Generater	4
30 35mm Camera	4
31 Cassette Tape Recorder	10
32 Public Address System	1



*VJ*

## LIST1/2

	ITEM	QUANTITY/SET
1987		
33	Large Developing Tank	1
34	Electric Tape-Writer	1
35	High Band U-Matic Editing System	1
36	High Band U-Matic Portable VTR	1
37	High Band U-Matic Camera	1
38	Sun Gun Light	1
39	Opaque Episcopes	1
40	Video Van	1
1988		
41	OHP Projector	2
42	Voltage Regulator	10
1989		
43	Slide Copier Chroma	1
44	Color TP Maker	1
45	Enlarger	1
46	Signal Processor	1
47	Audio Jack Unit	1
48	Open Reel Tape Recorder	1
49	OHP Projector	2
50	Lighting Kit	2



*KJ*

## TRAINING

## 1. Training in Japan.

Year	Field of Training	No. of Participants
1986	MCH	2
1987	MCH	3
1988	MCH	2
1989	MCH	3
	IEC	2
1990	MCH	2
	Total	14

## 2. Local Training ( Middle-level Trainees' Training Program)

Period : July 1987-March 1988

Description	No. of Participants
1) Workshop seminar for concerned personnels	30
2) MCH refresher training for paramedicals and field workers	244
3) IEC training for Intermediate Supervisor	10
Total	284

LIST3/1

Producton of IEC Material

Description	No. of Copies
1. MCH Booklets(Nepali)	45,000
2. ARI Pamphlet	30,000
3. Nutrition Chart	1,000
3. Ante/Postnatal Care Brochure	2,000
4. Growth Chart	4,000
5. MCH handbooks	2,000
6. Posters / Antenatal Care	3,009
7. Posters / Immunization	3,009
8. Posters / Nutrition	3,009
9. Flash Cards /Antenatal Care	15,500
10.Flash Cards /Immunization	15,000
11.Slides(6 components on MCH)	6 sets
12.Posters / Child Spacing	3,000
13.Posters / ARI	3,000
14.Flash Cards / Nutrition	16,000
15.Flash Cards / Child Spacing	16,000
16.Flash Cards / ARI	16,000
17.MCH Operation Manual	2,000







コーディネイティング・コミッティ（8月1日 ホテル内会議室）



ミニッツに署名する平山団長（左から2人目）及びパンディ課長（8月2日 保健省）





1990年7月

ネパール王国  
人口家族計画プロジェクト  
総括資料及び投入実績資料

ネパール王国人口家族計画プロジェクト

## 目 次

資料	プロジェクト総括表	P27
資料	プロジェクトの活動の経過	P28
資料	家族計画プロジェクトの暫定実施計画案（1985年10月）	P30
資料	供与機材額、現地調達機材額リスト	P31
資料	主要供与機材リスト	P32
資料	専門家リスト	P34
資料	調査団リスト	P35
資料	研修員リスト	P37
資料	プロジェクトM/P等に基づく活動の現状	P39
資料	分野別機材リスト	P41
資料	中堅技術者養成対策事業（1987年度）	P42
資料	技術普及広報事業	P43
資料	技術交換事業	P44
資料	印刷教材リスト（現地業務費）	P45
資料	ローカルコスト負担事業、現地業務費臨時支給費	P46
資料	映画会開催リスト	P47
資料	モデル地区概要／モデル地区	P49
資料	保健省及びFP/MCHプロジェクト 組織図	P61
資料	FP/MCHプロジェクト機構改革に関する文書（90.7.16）	P62
資料	最近のネパール情勢	P64

資料/ネパール国人口・家族計画プロジェクト・総括表

プロジェクト名 (英語名)	ネパール国人口・家族計画プロジェクト (Family Planning and Maternal and Child Health Project)									
実施機関	ネパール国保健省、FP/MCHプロジェクト									
協力期間	1985. 10. 7-1990. 10. 6									
協力の目的	2つのモデル地区(カブレ・ダヌーシャ郡)を設定し、コミュニティをベースとした母子保健と統合した家族計画の強化をはかるとともに、地域保健の向上に貢献すること。									
専 門 家	氏名	担当分野	生年月日	年齢	派遣期間	所属先				
	1. 綿引信義	公衆衛生	昭和30. 5. 11	34	86. 4. 27-90. 10. 6	JICA				
	2. 成瀬 章	業務調整	昭和22. 12. 20	42	86. 3. 23-88. 3. 22	JICA				
	3. 宇井照子	母子保健	昭和24. 8	40	86. 4. 23-89. 4. 22	JICA				
	4. 国分恵子	リーダー 母子保健	昭和23. 2. 9	41	89. 7. 14-90. 9. 30	石川県				
5. 碓 賢治	業務調整	昭和25. 12. 7	39	89. 10. 5-90. 10. 6	JICA					
協力計画実績	年度	長期 (専)	短期 (専)	研修 員	機材供与	機材供与 現地調達分	中 堅 技術者	技術普及 広 報	現業費 臨支分	技術 交換
	85		3	-	-	-	-	-	-	-
	86	3	2	2	35,947	-	-	2,752	-	4人
	87	3	3	3	53,307	6,713	3,220	-	2,976	-
	88	3	3	4	6,626	6,635	-	2,932	3,899	4人
	89	3	-	2	-	-	-	3,416	-	-
	90	3	-	2	-	-	-	3,416	-	-
	合計			14	113,926	25,646	3,220	11,930	16,415	
(単位:千円)										
JICA・インプット総額: 171,137 (千)円 年平均: 34,227 (千)円 (年度 85-90、5箇年)										
調 査 団	プロ・ファイ	84. 1. 31-84. 2. 17	評価	90. 7. 27-90. 8. 5						
	事前調査	85. 3. 1-85. 3. 16								
	実施協議	85. 10. 1-85. 10. 8								
	基礎調査	85. 12. 6-85. 12. 26								
	第2次基礎調査	86. 12. 2-87. 1. 26								
	巡回指導	87. 3. 3-87. 3. 13								
	計画打合	87. 11. 22-87. 11. 25								
	巡回指導	88. 2. 5-88. 2. 12								
巡回指導	90. 3. 28-90. 4. 5									

## 資料／ネパール家族計画プロジェクトの活動の経過

### 活動の経過

#### 1. 準備期間 (1985. 10-1987. 3、85年度／86年度)

- |                          |                     |
|--------------------------|---------------------|
| 1985. 12. 6-1985. 12. 26 | 基礎調査 (第1次) の実施      |
| 1986. 3-1986. 4          | 長期専門家 (3名) の派遣      |
| 1986. 6-1986. 12         | 専門家による基礎データの収集/巡回指導 |
| 1986. 12. 2-1987. 1. 26  | 基礎調査 (第2次) の実施      |
| 1987. 3. 15-87. 3. 27    | 技術交換事業の実施 (フィリピン)   |

#### 2. 基礎整備期間 (1987. 4-1988. 3、87年度)

- |                    |                                      |
|--------------------|--------------------------------------|
| 1987. 4            | 86年度技術普及広報事業による教材開発 (ブックレット、パンフレット他) |
| 1987. 6-1987. 8    | 現業費による栄養チャート、産前産後のケアカードの作成           |
| 1987. 7-1988. 3. 9 | 87年度中堅技術者養成対策事業の実施 (284名の研修参加)       |
| 1987. 6-1988. 3    | 86年度供与機材/87年度現地調達機材 (医薬品) の供与        |
| 1987. 12           | 短期IEC専門家によるIECセミナーの開催 (30名の参加)       |

#### 3. 活動強化期間 (1988. 4-1990. 3、88年度／89年度)

- |                   |  |
|-------------------|--|
| 1988. 4-1990. 3   | 88/89年度技術普及広報事業による教材開発 (フラッシュカード、ポスター、スライド他) 現業費による母子保健手帳の作成 |
| 1988. 4-1990. 3   | 87/88年度供与機材/88年度89年度現地調達機材 (医薬品) の供与                         |
| 1988. 6-1989. 3   | 専門家による巡回指導   |
| 1988. 7           | カブレ郡ナラ・ヘルスポスト建設完了<br>現業費による成長記録カードの作成                        |
| 1988. 9           | 技術交換事業の実施 (フィリピン)  |
| 1988. 11-1989. 1  | 母親講習会の実施 (カブレ郡、154名参加)                                       |
| 1989. 3           | ベビーコンテストの実施  |
| (1989. 3-1990. 6  | ネパール・インド外交関係の悪化  |
| 1989. 6           | ダヌーシャ郡ダヌーシャダム・ヘルスポスト建設完了                                     |
| 1989. 10-1989. 12 | CHV (Community Health Volunteer) 訪問調査 (カブレ郡ナラヘルスポスト)         |

4. 評価拡充期間（1990. 4-1990.10、90年度）

- |                 |                                      |
|-----------------|--------------------------------------|
| 1990. 2-1990. 8 | A V室改築工事の実施                          |
| 1990. 3         | 母子保健オリエンテーションの実施（カブレ郡ナラヘルスポ<br>スト）   |
| 1990. 3-1990. 8 | インパクト・サーベイの実施（カブレ郡）                  |
| (1990. 4        | 民主化運動激化に伴い政権の交代、複数政党制の容認)            |
| 1990. 6-1990. 9 | 90年度技術普及広報事業による教材開発（母子保健業務マニ<br>ュアル） |
| 1990. 9         | 89／90年度供与機材の供与                       |

資料／暫定実施計画案（1985年10月策定）

I. 準備期間

1. 全国レベル及びモデル地区の現状把握

a. 人口動態の把握 b. 保健医療の現状把握 c. 行政機構の把握

2. パイロット地区の現状把握

a. 戸別訪問調査手法の確立 b. 戸別訪問調査の実施

3. 具体的到達目標の設定

1) 周産期検診率 2) 児童検診率 3) 予防接種率 4) 疾病構造の変化 5) 乳児死亡率  
6) 妊産婦死亡率 7) 家族計画認識率 8) 家族計画実行率 9) 出生率

II. 基盤整備期間

1. モデル地区整備

a. 母子保健サービス体制整備

1) 中央病院の整備 2) ヘルスポストの整備 3) 産前産後検診制度の確立 4) 児童  
検診制度の確立 5) 予防接種の整備（コールドチェーンシステムの確立）

b. 家族計画サービス体制制度

1) 中核病院の整備 2) ヘルスポストの整備 3) 広報媒体の整備 4) 家族計画普及  
員の再訓練

III. 活動強化期間

1. モデル地区強化

a. 母子保健の向上

1) 学校保健体制整備 2) 家庭訪問による母子保健サービス網の整備 3) 環境衛生  
の改善

b. 家族計画サービス体制強化

1) 避妊方法の改善 2) 家族計画普及員の資質レベルアップ 3) 広報媒体の強化

IV. 評価拡充期間

1. モデル地区内拡充

a. 新規家族計画実行者の獲得

2. モデル地区の全国規模への拡大化検討

a. 広報媒体の開発普及 b. モデル地区内の協力効果の測定、評価

## 資料／供与機材額、現地調達機材額リスト

年 度	供与機材額	現地調達機材額	供与機材合計額
1 9 8 6	35,946,771		35,946,771
1 9 8 7	53,307,087	6,713,000	60,020,087
1 9 8 8	6,625,902	6,635,000	13,260,902
1 9 8 9	18,046,259	12,298,000	30,344,259
1 9 9 0	-	-	-
合 計	113,926,019	25,646,000	139,572,019

(単位円)

## 資料/主要供与機材リスト

年度	No	供 与 機 材 名	数 量
86年度	1	ランドクルーザー-BJ60RV-KC	3
	2	乳幼児体重計	20
	3	体重計	20
	4	身長計	20
	5	分娩セット	50
	6	縫合セット	50
	7	顕微鏡Model, FMP/LSP 1set & Model. POS 2set	3
	8	保育器Model, D-58	4
	9	吸引器	4
	10	薬用冷蔵庫Model, MC-23	6
	11	ジェネレーターModel, EM-1400	3
	12	複写機CANON NP-400	1
	13	VHS編集機BR-8600E	2
	14	編集コントローラーRM-86U	1
	15	モニターTV (10 inch) JVC-TM-90PSN	2
	16	VHSビデオカセットレコーダーJVC-HR-D755E	3
	17	モニターTV (21 inch) JVC-C-210HM	3
	18	電圧調整器	3
	19	VHS ビデオカメラNV-M5	1
	20	16mmフィルムプロジェクターELMO-16-CL/DLX	2
	21	スライドプロジェクターELMO-OMNIGRAPHIC-252	4
87年度	22	X線装置Model, KXR-100-FR	1
	23	乳幼児体重計	10
	24	体重計	10
	25	分娩台Model, 805-cm-5738	3
	26	診断器セット	30
	27	OHPプロジェクター	4



年度	No	供 与 機 材 名	数 量
	28	16mmフィルムプロジェクター-ELMO-16-CL/DLX	4
	29	スライドフィルムプロジェクター-ELMO-OMNIGRAPHIC-252	8
	30	ジェネレーター-Model, EM-650	4
	31	35mmカメラ	4
	32	カセットレコーダ-ELMO-PCV-77U	4
	33	カセットレコーダ-SONY-TC-D5	6
	34	パブリックアドレスシステム	1
	35	大型現像タンク	1
	36	電動タイプライター-IBM-6746	1
	37	ハイバンドUマティック編集システム	1
	38	ハイバンドUマティックポータブルVTR	1
	39	ハイバンドUマティックカメラ	1
87年度	40	SUN-GUNライト	4
	41	オペークエピスコープ	1
	42	ビデオVAN/Mitsubishi Delica 4WD	1
	43	16mmテープ	9
88年度	44	OHPプロジェクター	2
	45	16mmテープ	9
	46	電圧調整器	10
89年度	47	スライド複写機CHROMA-PRO-45	1
	48	カラーTPメーカー-Model, M4550	1
	49	フォト拡大機Model, 450M-C	1
	50	シグナルプロセサー-Model, REV-5	1
	51	オーディオジャックユニットModel, TZ5102	1
	52	オープンリールテープレコーダ-Model, MX-5050B112	1
	53	OHPプロジェクター	2
	54	ライティングキットModel, UK-20A	2

資料／専門家リスト

年度	長／短	氏名	指導科目	派遣期間	赴任時所属先
1985	長期	成瀬 章	業務調査	86. 3. 23-88. 3. 22	国際協力事業団嘱託
	短期	渡辺 正夫	協力計画	85. 9. 3-85. 9. 12	国際協力事業団
	短期	成瀬 章	技術協力	85. 9. 3-85. 9. 12	国際協力事業団嘱託
	短期	綿引 信義	公衆衛生	85. 9. 3-85. 9. 12	国際協力事業団嘱託
1986	長期	宇井 照子	母子保健	86. 4. 23-89. 4. 22	元海外青年協力隊
	長期	綿引 信義	公衆衛生	86. 4. 27-90. 10. 6	国際協力事業団
	短期	渡辺 正夫	協力計画	86. 9. 30-86. 10. 4	国際協力事業団
	短期	新納 宏	協力計画	86. 9. 30-86. 10. 8	国際協力事業団
1987	短期	内海 成治	IEC	87. 11. 27-87. 12. 13	国際協力事業団
	短期	岩田 保雄	IEC	87. 11. 27-87. 12. 13	学習研究社
	短期	新納 宏	協力計画	87. 12. 4-87. 12. 13	国際協力事業団
1988	短期	日暮 真	母子保健	88. 7. 13-88. 7. 22	東京大学
	短期	植竹 君江	母子保健	88. 7. 13-88. 7. 22	(財)母子愛育会
	短期	建部 信	業務調査	88. 7. 13-88. 7. 22	国際協力事業団
1989	長期	国分 恵子	母子保健	89. 7. 14-90. 9. 30	石川県庁
	長期	碓 賢治	業務調査	89. 10. 5-90. 10. 6	国際協力事業団嘱託

## 資料/調査団リスト

年度	調査団名	氏名	指導科目	派遣期間	派遣時所属先	
1983	プロファイ	平山 宗宏	母子保健	84. 1. 31-84. 2. 12	東京大学	
		新津 晃一	開発社会学	84. 1. 31-84. 2. 12	国際協力事業団	
		大橋 光洋	家族計画	84. 1. 31-84. 2. 17	家族計画国際協力財団	
		兵井 伸行	公衆衛生	84. 1. 31-84. 2. 17	順天堂大学	
		後藤 俊男	業務調整	84. 1. 31-84. 2. 17	国際協力事業団	
1984	事前調査	平山 宗宏	総括	85. 3. 1-85. 3. 16	東京大学	
		佐藤 孝道	産婦人科	85. 3. 1-85. 3. 16	東京大学	
		大橋 光洋	人口家族計画	85. 3. 1-85. 3. 16	家族計画国際協力財団	
		馬場 新子	地域保健	85. 3. 1-85. 3. 16	国際協力事業団	
1985	実施協議	平山 宗宏	総括	85. 10. 1-85. 10. 8	東京大学	
		長谷川鐘穂	技術協力	85. 10. 1-85. 10. 8	外務省	
		後藤 俊男	業務調整	85. 10. 1-85. 10. 8	国際協力事業団	
	基礎調査	松本 信雄	総括	85. 12. 6-85. 12. 15	東京慈恵医科大学	
		大内 穂	人口学社会経済	85. 12. 6-85. 12. 26	アジア経済研究所	
		清水 英祐	衛生統計学	85. 12. 6-85. 12. 23	東京慈恵医科大学	
		伊藤 精彦	衛生統計学	85. 12. 6-85. 12. 26	東京大学	
		西川由比子	人口家族計画	85. 12. 6-85. 12. 26	アジア人口開発協会	
		成瀬 章	調査作業管理	85. 12. 6-85. 12. 15	国際協力事業団囑託	
		綿引 信義	調査作業管理	85. 12. 6-85. 12. 15	国際協力事業団囑託	
	1986	第2次基礎調査	相良 徹	衛生学	86. 12. 2-86. 12. 26	日本大学
			大塚 友美	人口学	86. 12. 2-87. 1. 26	日本大学
			西川由比子	人口家族計画	86. 12. 2-87. 1. 26	アジア人口開発協会
新納 宏			調査作業管理	86. 12. 2-86. 12. 11	国際協力事業団	

年度	調査団名	氏名	指導科目	派遣期間	派遣時所属先
1987	巡回指導	平山 宗宏	総括／保健衛生	87. 3. 3-87. 3. 13	東京大学
		日暮 真	保健衛生	87. 3. 3-87. 3. 13	山梨医科大学
		持田 兆子	母子保健	87. 3. 3-87. 3. 13	(財)母子愛育会
		勝野 真人	人口	87. 3. 3-87. 3. 13	国立公衆衛生院
		渡辺 正夫	企画調整	87. 3. 3-87. 3. 13	国際協力事業団
	計画打合	渡辺 正夫	協力計画	87. 11. 22-87. 11. 25	国際協力事業団
1988	巡回指導	平山 宗宏	総括	88. 2. 5-88. 2. 12	東京大学
		日暮 真	母子保健	88. 2. 7-88. 2. 12	山梨医科大学
		持田 兆子	母子保健	88. 2. 5-88. 2. 12	(財)母子愛育会
		大塚 友美	人口統計	88. 2. 1-88. 2. 9	日本大学
		渡辺 正夫	協力計画	88. 2. 1-88. 2. 12	国際協力事業団
1989	巡回指導	平山 宗宏	総括	90. 3. 28-90. 4. 6	日本総合愛育研究所
		持田 兆子	母子保健	90. 3. 28-90. 4. 6	(財)母子愛育会
		後藤 典雄	協力計画	90. 3. 28-90. 4. 6	国際協力事業団
1990	評価	平山 宗宏	総括	90. 7. 27-90. 8. 5	日本総合愛育研究所
		持田 兆子	母子保健	90. 7. 27-90. 8. 5	(財)母子愛育会
		原 徳寿	家族計画行政	90. 7. 27-90. 8. 5	厚生省
		後藤 典雄	協力計画	90. 7. 27-90. 8. 5	国際協力事業団

資料/研修員リスト

年度	氏名	派遣時所属先	派遣期間	現職
1986	Dr. T. B. Khatri	FP/MCH Project Chief	86. 9. 26-86. 10. 9	Bir Hospital Chief
	Dr. K. A. Dixit	MOH, International Health & Training Division Chief	86. 9. 26-86. 10. 9	88.5月タイにて死亡
1987	Mr. J. K. Shrestha	FP/MCH Project MCH Section Chief	87. 5. 7-87. 5. 30	FP/MCH Project Deputy Chief
	Dr. M. Joshi	FP/MCH Project Deputy Chief	87. 5. 7-87. 5. 30	MOH, Curative Div. Deputy Chief
	Mr. M. Mool	FP/MCH Project Eva Section officer Officer	87. 4. 5-87. 4. 25	MOH, Central Public Health Officer
1988	Mr. J. P. Singh	FP/MCH Project Danusha District officer	88. 6. 12-88. 6. 29	MOH, Danusha District Public Health officer
	Mr. M. Joshi	FP/MCH Project Kabhre District officer	88. 6. 12-88. 6. 29	MOH, Kabhre District Public Health officer
	Mr. M. R. Baidya	FP/MCH Project IEC Section officer	89. 3. 30-89. 4. 19	FP/MCH Project IEC Section officer
	Mr. U. P. Aryal	FP/MCH Project IEC Section officer	89. 2. 15-89. 12. 22	FP/MCH Project IEC Section officer

年度	氏 名	派遣時所屬先	派 遣 期 間	現 職
1989	Ms. S. Risal	FP/MCH Project MCH Section, Senior Public Health Nurse	89.11.19-89.12.16	FP/MCH Project MCH Section, Senior Public Health Nurse
	Dr. P. Sharma	FP/MCH Project Deputy Chief	89.11.19-89.12.2	Bir Hospital
	Dr. K. Vaidya	MOH, Central Regional Directorate Director	89.11.19-89.12.2	MOH, Central Regional Directorate Director
1990	Mr. D. L. Shrestha	MOH, Dhanusha District Parwaha Health Post Health Assistant	'90 10.25 - 11.20	MOH, Dhanusha District Parwaha Health Post Health Assistant
	Mr. B. K. Shrestha	MOH, Kabhre District Nala health Post Health Assistant	同上	MOH, Kabhre District Nala Health Post Health Assistant



資料/ネパール国家族計画プロジェクト機材総表

年度	B/LNo	保険証券 No	便 名	船積日	検収日	機 材 費	輸 送 費 他	総 額	箱数	備 考
85	217-3151-8303	331-024053J	TG-741.311	86. 3. 21	86. 7. 21	350,450.00	161,645.00	512,095.00	2	成瀬専用機材
86	217-3241-2612	451-006130J	TG-643.311	86. 4. 25	86. 7. 20	1,307,015.00	318,782.00	1,625,797.00	7	綿引専用機材
86	217-3241-2730	451-006251J	TG-643.311	86. 5. 11	86. 5. 20	170,000.00	55,012.00	225,012.00	2	報告書116冊
86	217-3489-5895	4587-001007	TG-643.311	86. 7. 14	86. 8. 3	174,450.00	43,221.00	217,671.00	7	報告書30冊
86	217-3483-1614	-	TG-643.311	87. 3. 25	87. 4. 14	1,040,000.00	43,488.00	1,083,488.00	1	ファイラム
*86	Y-4-CN	4587-000678	MANOLO EVERETT	87. 6. 1	87. 8. 2	7,355,311.00	1,647,957.00	9,003,268.00	3	ランドクルザー
*86	N-1-CN	4587-001576	MARRAY EVERETT	87. 9. 24	87. 12. 4	24,287,425.00	1,976,856.00	26,264,281.00	25	IEC・医療機材
*86	217-3489-1662	4587-001991	TG-643.311	87. 11. 2	87. 12. 7	600,400.00	78,822.00	679,222.00	2	顕 微 鏡
87	217-3462-8156	4587-002432	TG-741.311	87. 1. 6	88. 2. 12	14,223.00	29,115.00	43,338.00	1	車 両 部 品
*87	YHCA-1002	4588-001217	PAMELA II	88. 7. 15	88. 8. 30	42,090,000.00	1,676,039.00	43,766,039.00	26	IEC・医療機材
*87	451-10-6400	4588-001993	VISHVA NANDINI	88. 10. 4	88. 12. 29	6,180,000.00	1,078,990.00	7,258,990.00	3	ビデオオバン
*87	217-3758-9193	4588-000646	TG-641.311	88. 5. 25	88. 7. 3	2,169,490.00	112,568.00	2,282,058.00	1	スライド, 16mm
89	217-4046-7593	4589-000839	TG-741.311	89. 4. 12	89. 12. 13	4,237,200.00	179,103.00	4,416,303.00	1	テレコ (保求)
89	217-4046-7560	4589-000841	TG-741.311	89. 6. 16	89. 6. 30	1,497,100.00	212,637.00	1,709,737.00	1	VTRケーブル
*88	451-10-5003	4589-001930	JOHN EVERETT	89. 10. 8	90. 1. 29	6,164,550.00	461,352.00	6,625,902.00	1	血 圧 計 他
89	217-4231-1710	4589-001268	TG-641.311	89. 7. 29	89. 8. 30	344,000.00	59,587.00	403,587.00	1	国分専用機材
89	220-2003-2331	4589-002440	LH-679.764	89. 12. 15	90. 1. 10	1,293,200.00	265,634.00	1,558,834.00	1	錠専用機材
89	217-4230-6670	4589-002977	TG-641.311	90. 2. 17	90. 3. 8	519,730.00	123,500.00	643,230.00	3	国分錠専用機材
89	217-4230-6784	4589-003291	TG-641.311	90. 3. 23	90. 4. 13	420,000.00	129,889.00	549,889.00	1	綿引専用機材
90	217-4230-6924	4590-000273	TG-641.311	90. 4. 21	90. 5. 11	410,440.00	200,121.00	610,561.00	2	ビデオオバン
*89	451-05-8704	4590-000828	THOMAS EVERETT	90. 6. 9		14,942,620.00	3,103,639.00	18,046,259.00	6	車両・医療機材
合 計										
合計 (供与機材のみ)										
						103,789,796.00	10,136,223.00	113,926,019.00		

参考機材 (感染症対策プロジェクト)

*87	TK-1850	4588-000521	MANOLO EVERETT	88. 5. 6	-	6,311,000.00	612,856.00	6,923,856.00	16	ソーラシステム
-----	---------	-------------	----------------	----------	---	--------------	------------	--------------	----	---------

(単位:円)

(\*は供与機材)



資料／分野別機材リスト

分野別機材リスト		IEC	医療資機材	輸送費	小計	合計
年度	車両					
1986	6,900,000			2,103,268	9,003,268	35,946,771
	977,425	9,870,000	13,440,000	1,976,856	26,264,281	
			600,400	78,822	679,222	
小計	7,877,425	9,870,000	14,040,400	4,158,946	35,946,771	35,946,771
1987		25,785,300	16,304,700	1,676,039	43,766,039	53,307,087
		6,180,000		1,078,990	7,258,990	
		2,169,490		112,568	2,282,058	
			6,713,000		6,713,000	6,713,000
小計	0	2,841,000	9,958,550	461,352	13,260,902	13,260,902
1988	4,620,000	6,501,670	3,820,950	3,103,639	18,046,259	18,046,259
		1,863,000	10,435,000		12,298,000	12,298,000
		(現地調達機材)	(現地調達機材)			
小計	4,620,000	8,364,670	14,255,950	3,103,639	30,344,259	30,344,259
TOTAL	12,497,425	55,210,460	61,272,600	10,591,534	139,572,019	139,572,019
%	8.95%	39.56%	43.90%	7.59%	100.00%	

(単位：円)

資料/1987年度中堅技術者養成対策事業

No	実施事業名	内容	参加者	研修期間	研修場所
1	ワークショップセミナー	HMG/JICAプロジェクトに関するオリエンテーション	プロジェクト関係者及び他機関の責任者 16名 (カブレ郡)	87. 7. 19-87. 7. 20 (カブレ郡)	ヒマラヤホリゾンタルホテル (カブレ郡)
2	母子健康リフレシヤートレーニング	1) 妊産婦保健 2) 経口補液 3) 予防接種 4) 栄養 5) 出産間隔の奨励 6) IEC以上6項目にかかる講義	14名 (ダヌーシャ郡)  モデル地区のパラメディカルグループ (PM, ヘルスポスト職員) とフィールドワーカーグループ (FW) 1. 17名/25名 (カブレ郡) 2. 10名/24名 (カブレ郡) 3. 26名/28名 (ダヌーシャ郡) 4. 21名/25名 (ダヌーシャ郡) 5. 0名/29名 (カブレ郡) 6. 0名/31名 (カブレ郡) 7. 10名/0名 (カブレ郡) 小計84名/160名	87. 7. 22-87. 7. 23 (ダヌーシャ郡)  87. 8. 10-87. 8. 16 87. 8. 19-87. 8. 25 87. 10. 10-87. 10. 17 87. 10. 27-87. 11. 3 88. 2. 23-88. 2. 25 88. 2. 26-88. 2. 28 88. 2. 23-88. 2. 28	ムゼリヤパンチャヤート トレーニングセンター (ダヌーシャ郡)  ドゥリケルロッジ (カブレ郡)  ムゼリヤパンチャヤート トレーニングセンター (ダヌーシャ郡)
3	IECセミナー	16mmフィルム/スライドプロジェクター, ジェネレーターの保守管理及び操作にかかる講義	カブレ郡のIntermediate Supervisor (IS) 10名  (換金レート) (US\$1 = 152.65円 = NRS22.00)	88. 3. 7-88. 3. 9	ドゥリケルロッジ (カブレ郡)
	総参加数	284名			
	支出総額	NRS 464, 068. 22 (3, 220, 000)			

資料/技術普及広報事業

年度	教材名	部数	価格(円)	支払日	配布先
86	母子保健ブックレット	45,000	345,630.00	87・3・30	モデル地区の郡事務
	急性呼吸器系疾患パンフレット	30,000	34,420.00	87・3・30	所・ヘルスポスト・
	諸経費		7,235.00		及びPBHW
	合計		387,285.00		
88	フラッシュカード(産前検診)	15,500	93,000.00	88・12・12	モデル地区のヘルス
	同上(予防接種)	15,500	93,000.00	88・12・12	ポスト・病院他
	ポスター(産前検診)	3,009	89,600.00	88・12・12	
	同上(予防接種)	3,009	89,600.00	88・12・12	
	同上(栄養)	3,009	89,600.00	88・12・12	
	スライド(産前検診)	各内容毎に			FP/MCHセンター
	同上(予防接種)	24スライド			郡事務所
	同上(栄養)	6種類の内容			研修センター
	同上(経口補水液)	6セット	63,295.00	88・3・30	各2セット
	同上(出産間隔)				
	同上(急性呼吸器系疾患)				
合計		518,095.00			
89	ポスター(出産間隔)	3,000	90,900.00	89・3・27	モデル地区の郡事務
	同上(急性呼吸器系疾患)	3,000	90,900.00	89・3・27	所・ヘルスポスト他
	フラッシュカード(栄養)	16,000	124,800.00	89・3・27	
	同上(出産間隔)	16,000	124,800.00	89・3・27	
	同上(急性呼吸器系疾患)	16,000	124,800.00	89・3・27	
合計		556,200.00			
90	母子健康業務マニュアル	2,000	651,900.00	90. 8. 31 (予定)	モデル地区の郡事務 所・ヘルスポスト他
86	示達額	¥ 2,752,000			
88	示達額	¥ 2,932,000			
89	示達額	¥ 2,830,000			
90	示達額	¥ 3,416,000			
	合計	¥11,930,000			

資料 / 技術交換事業

年度	氏名	派遣時所属先	派遣期間	技術交換地	現職
86	Mr. S. K. Shrestha	FP/MCH Project Kabhre District officer	87. 3. 15-87. 3. 27	フィリピン	MOH, Saliyan District Public Health officer
	Ms. G. Neeta	FP/MCH project MCH Section, Senior Public Health Nurse	87. 3. 15-87. 3. 27	フィリピン	FP/MCH Project, MCH Clinic
	Mr. H. R. Koirala	FP/MCH Project MCH Section, Nutrition Officer	87. 3. 15-87. 3. 27	フィリピン	FP/MCH Project MCH Section, Nutrition Officer
	宇井 照子	JICA expert	87. 3. 15-87. 3. 27	フィリピン	帰国
88	Dr. S. A. Thapaliya	FP/MCH Project MCH Section Chief	88. 9. 4-88. 9. 11	フィリピン	FP/MCH Project MCH Section Chief
	Mr. P. M. Gurung	FP/MCH Project IEC Section Chief	88. 9. 4-88. 9. 11	フィリピン	UN Volunteer
	綿引 信義	JICA Expert	88. 9. 4-88. 9. 11	フィリピン	JICA Expert

資料/印刷教材リスト(現地業務費)

No	年度	教材名	部数	作成日	配布先
1	87	栄養チャート	1,000	87. 8. 15	中堅技術者養成対策事業参加者
2	87	産前産後ケア カード	2,000	87. 8. 18	中堅技術者養成対策事業参加者
3	88	母子保健手帳 (B 5 版)	1,000	88. 7. 8	カブレ郡ナラヘルスポスト1000部
4	88	成長記録カード	4,000	88. 7. 8	カブレ郡ナラヘルスポスト(4箇所) ダヌーシャ郡ヘルスポスト(4箇所)
5	88	母子保健手帳 (フォト版)	1,000	88. 10. 31	カブレ郡コパシヘルスポスト-500部 ダヌーシャ郡ゴダカスヘルスポスト -500部

資料/ローカルコスト負担事業、現地業務費臨時支給費

No	項目	年度	内容	支払日	支払額(ルピー)	示達額/円貨
1	ヘルスポスト	87	Nala Health Post (カブレ郡) 資機材購入 88. 7建築完了	88. 3. 10	435,865.00	¥2,976,000
		88	Danusha Dam Health Post (ダヌーシャ郡) 資機材購入 89. 36建築完了	89. 2. 28	753,200.00	¥3,899,000
2	AV室改築工事	89	NOH本部ビル1階 IEC Section室の AV室改築工事 資機材購入  (現業費にて対応)  (現業費にて対応)	90. 2. 15	949,642.50 (資機材購入費)	¥4,844,000
				90. 2. 16	111,780.00 (備入費)	
				90. 2. 19	120,000.00 (AV室コンサル タント契約費)	
3	インパクト サーベイの 実施	89	カブレ郡における インパクトサーベイ の実施	90. 3. 25	920,531.00	¥4,696,000
				50%		
				90. 6. 31		
				25%		
				90. 8. 31(予定)		
				25%		

資料／映画会開催リスト  
REPORT ON FILM SHOWS

<u>S. No.</u>	<u>Date</u>	<u>Place</u>	<u>Time</u>	<u>No. of Audience</u>		<u>Total</u>
				<u>Children</u>	<u>Adult</u>	
1.	Dec. 4, 1988	Panchkhal	6:45 (2hrs.)	150	300	450
Name of films:						
1. Good Kasam & Clever Manee						
2. Gram Saphai						
3. For Your Beloved Baby						
4. Before the baby Comes						
5. Coming into this World						
2.	Dec. 5, 1988	Heguwapati	7:00 (2:15hrs)	130	350	480
Name of films:						
1. Good Kasam & Clever Manee						
2. For Your Beloved Baby						
3. Coming into this world						
4. Gram Saphai						
5. Exercise for Pregnent Woman						
3.	Dec 6, 1988	Hokse	7:00 (2:10hrs)	150	250	400
Name of films:						
1. The Changing Society (Japan)						
2. Good Kasam & Clever Mancee						
3. Coming into this World						
4. Gram Saphai						
5. For Your Beloved Baby						
4.	Dec 8, 1988	Dapcha	7:30 (2:15hrs)	100	300	400
Name of films:						
1. The Changes Society (Japan)						
2. Good Kasam & Clever Manee						
3. For Your Beloved Baby						
4. Coming into this World						
5. Gram Saphai						

<u>S.No.</u>	<u>Date</u>	<u>Place</u>	<u>Time</u>	<u>No. of Audience</u>		<u>Total</u>
				<u>Children</u>	<u>Adult</u>	
5.	Dec. 11, 1988	Palanchok Bhagwati	6:55 (2:10hrs)	75	225	300
		Name of films:				
		1. Four Seasons				
		2. Good Kasam & Clever Manee				
		3. Gram Saphai				
		4. For Your Beloved Baby				
		5. Coming into this World				
6.	Jan 24, 1989	Nagre	6:45 ( )	-	-	600
		Name of films:				
		1. The Worms				
		2. Good Kasam & Clever Manee				
		3. Jagaran				
		4. Sudha Ra Santosh				
		5. Golden Years of Happiness				
7.	Jan. 25, 1989	Dhanusadham	7:15 ( )	-	-	400
		Name of films:				
		1. Jagaran				
		2. Sudha Ra Santosh				
		3. The Worms				
		4. Good Kasam & Clever Manee				
8.	Jan 27, 1989	Godar H.P.	7:00 ( )	350	400	750
		Name of films:				
		1. Jagaran				
		2. The Worms				
		3. Sudha Ra Santosh				



資料/モデル地区概要

1. カブレパランチョーク郡

Region	Zone	District	Ilaka	Village
Central	Bagmati	Kabhre palanchok	9 Ilaka	68 Village

a. 地理

面積	標高	気温	年間降雨量
1396Km	1007-3018m	最高33℃	1299.8ml

b. 人口

男	女	Total
156,218	150,932	307,150 (81年統計)
		357,426 (88年推計)

c. 保健サービス

病院	ヘルス センター	ヘルス ポスト	施薬院 (薬草)	FP/MCH クリニック
1	1	9/2	4	5

Sheer 9-イラカヘルスポスト  
記念病院 2-一般ヘルスポスト

2. ダヌーシャ郡

Region	Zone	District	Ilaka	Village
Central	Bagmati	Kabhre palanchok	9 Ilaka	68 Village

a. 地理

面積	標高	気温	年間降雨量
1396Km	1007-3018m	最高33℃	1299.8ml

b. 人口

男	女	Total
156,218	150,932	307,150 (81年統計)
		357,426 (88年推計)

c. 保健サービス

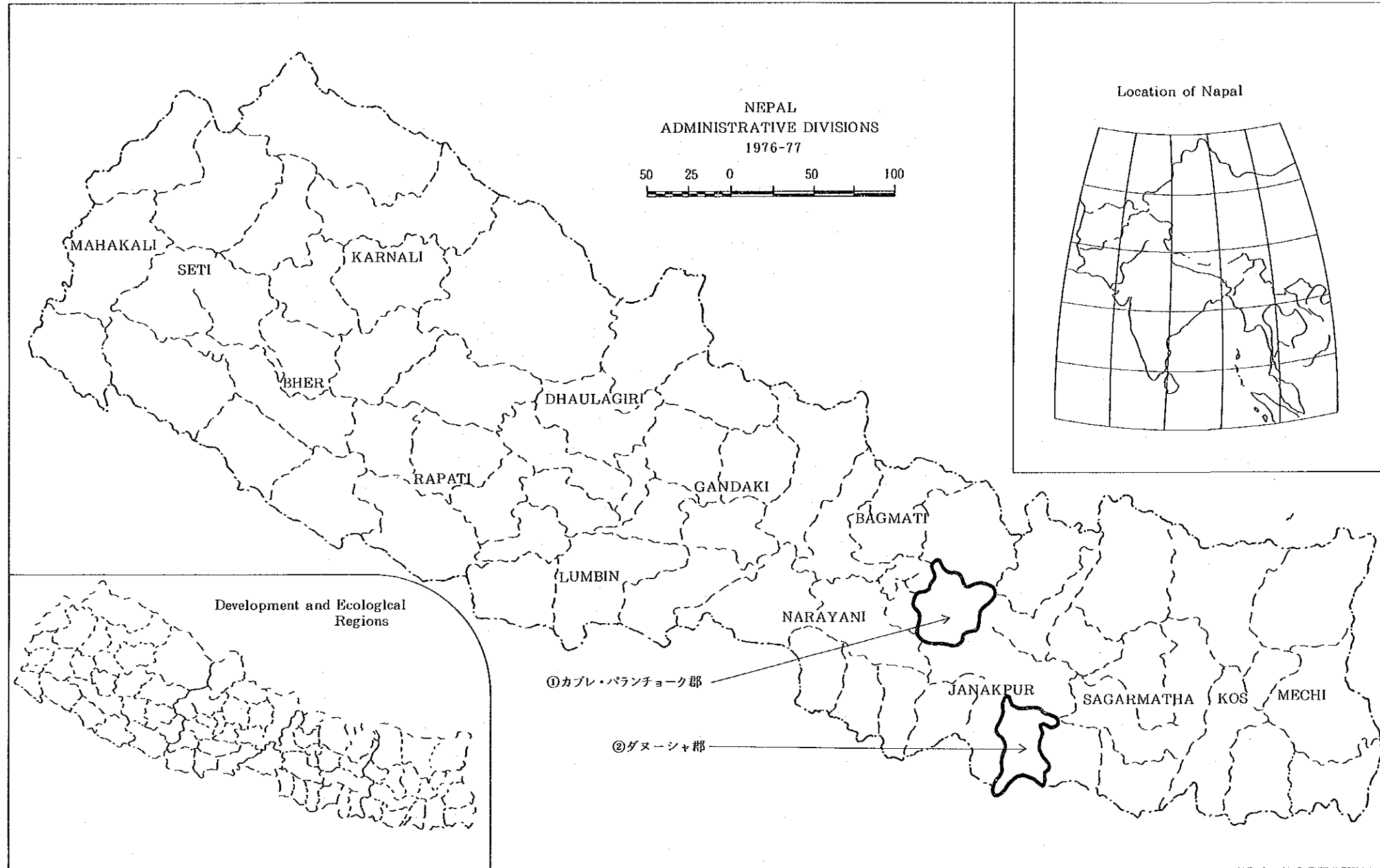
病院	ヘルス センター	ヘルス ポスト	施薬院 (薬草)	FP/MCH クリニック
1	1	9/2	4	5

1. Janakpur 9 - イラカヘルスポスト  
Zonal 病院 50床 2 - 一般ヘルスポスト  
2. Ramjanaki  
Eye 病院 24床



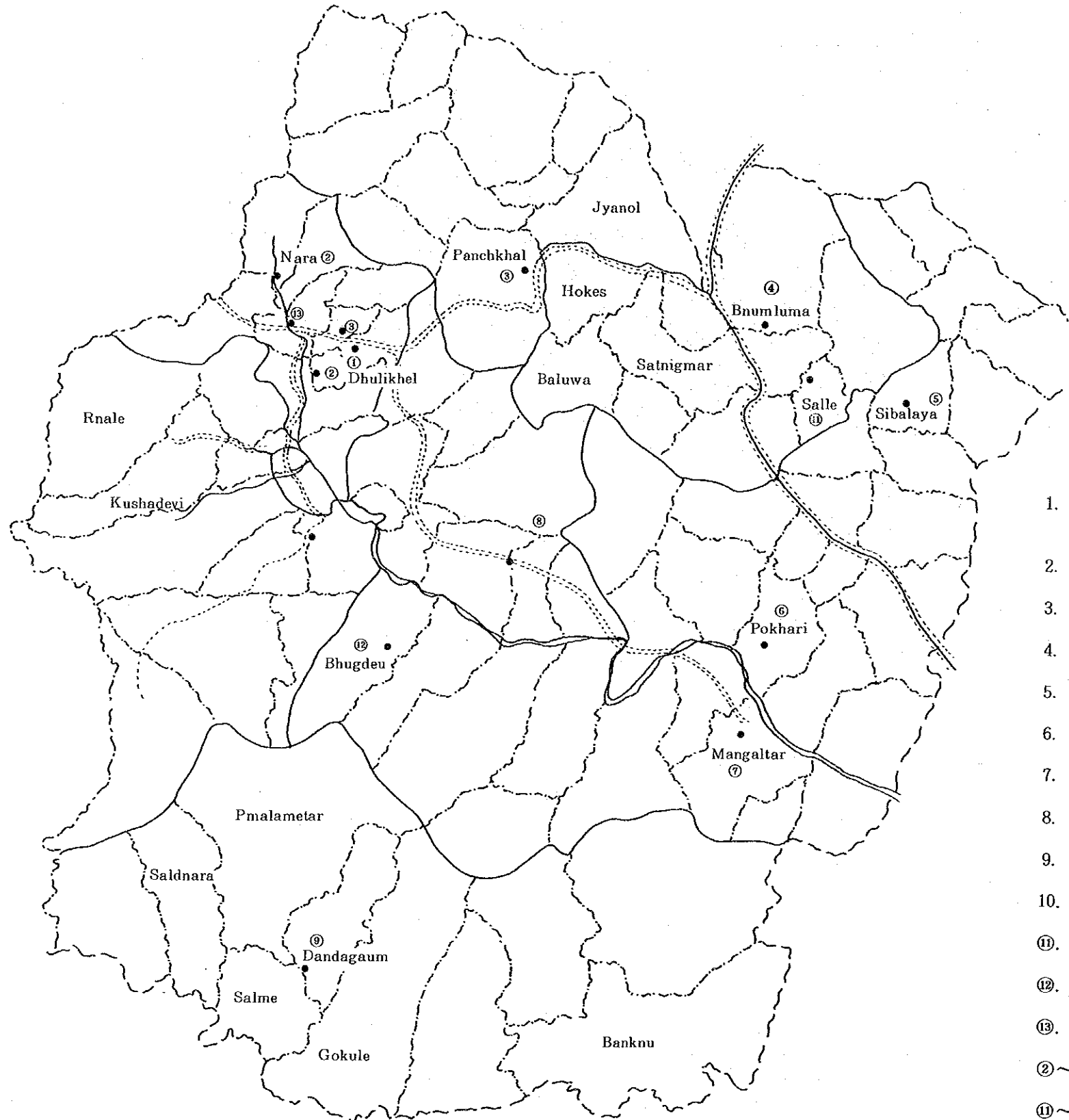


プロジェクト・モデル地区





カブレ郡ヘルス・ポスト配置図  
 CAVRE PALANCHOK  
 DISTRICT



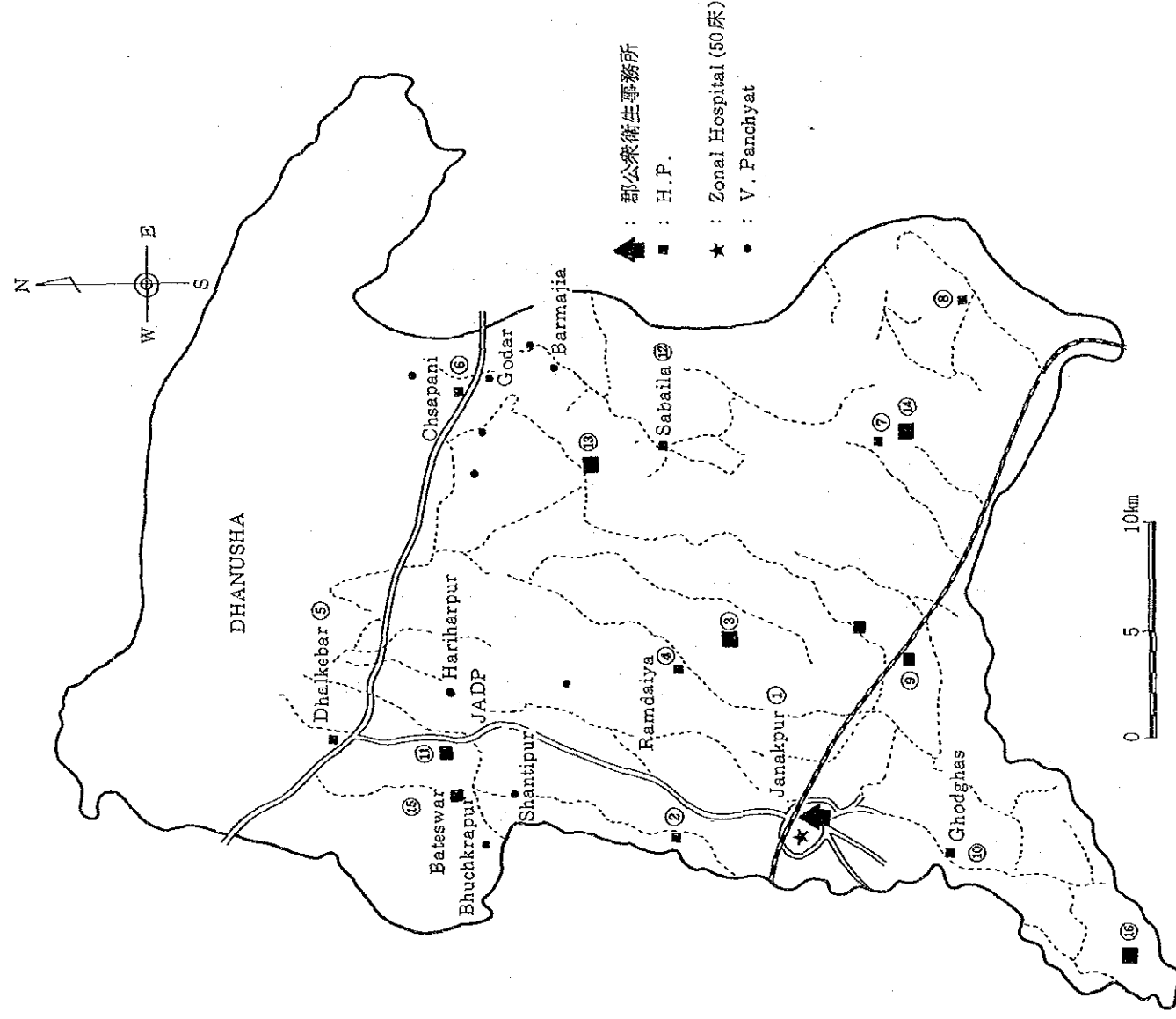
- ① Janagri
- ② Shrirhandapur
- ③ Batrnyogini
- ④ Taukhal
- ⑤ Panauti

- 1. Dhulikhel Health Center,  
(Dhulikhel Public Health Office)
- 2. Nala Health Post, (※ヘルス・ポスト新築)
- 3. Panchkhal Health Post,
- 4. Bhumlutar Health Post, (※ソーラシステム設置)
- 5. Sibalaya Health Post,
- 6. Pokhari Narayansthan Health Post,
- 7. Mangaltar Health Post,
- 8. Dapcha Health Post,
- 9. Taldhunga Health Post,
- 10. Khopashi Health Post,
- ⑩. Bekhsimle Health Post,
- ⑫. Pangu Bhugdeu Health Post,
- ⑬. Banepa MCH Clinic,
- ②~⑩ 9ヶ所 イラカ・ヘルス・ポスト
- ⑪~⑬ 一般ヘルス・ポスト

↑ 病院 (Sheer 記念病院 36 床)  
 ● ヘルス・ポスト / ヘルス・センター / MCH クリニック



ダヌーシャ郡ヘルス・ポスト配置図



① 郡公衆衛生事務所

②～⑩ 9ヶ所, イラカヘルス・ポスト

1. District Public Health Office, MCH attached Clinic.

2. Sinurjoda Health Post,

3. Hanspur Kathpulla Health Post,

4. Tarapatii Health Post,

5. Dhalkebar Health Post,

6. Chisapani Godar Health Post,

7. Yadukuha Health Post,

8. Dubairkot Health Post,

9. Parwaha Health Post,

10. Ghodghas Health Post,  
(※ソーラシステム設置)

⑪. Nakatajhij Health Post,

⑫. Sabaila Health Post,

⑬. Dhanusa Dham Health Post,  
(※ヘルス・ポスト新築)

⑭. Dhabauli Health Post,

⑮. Bateswar Health Clinic,

⑯. Tulshiyahi Health Clinic,

4ヶ所一般ヘルス・ポスト

クリニック





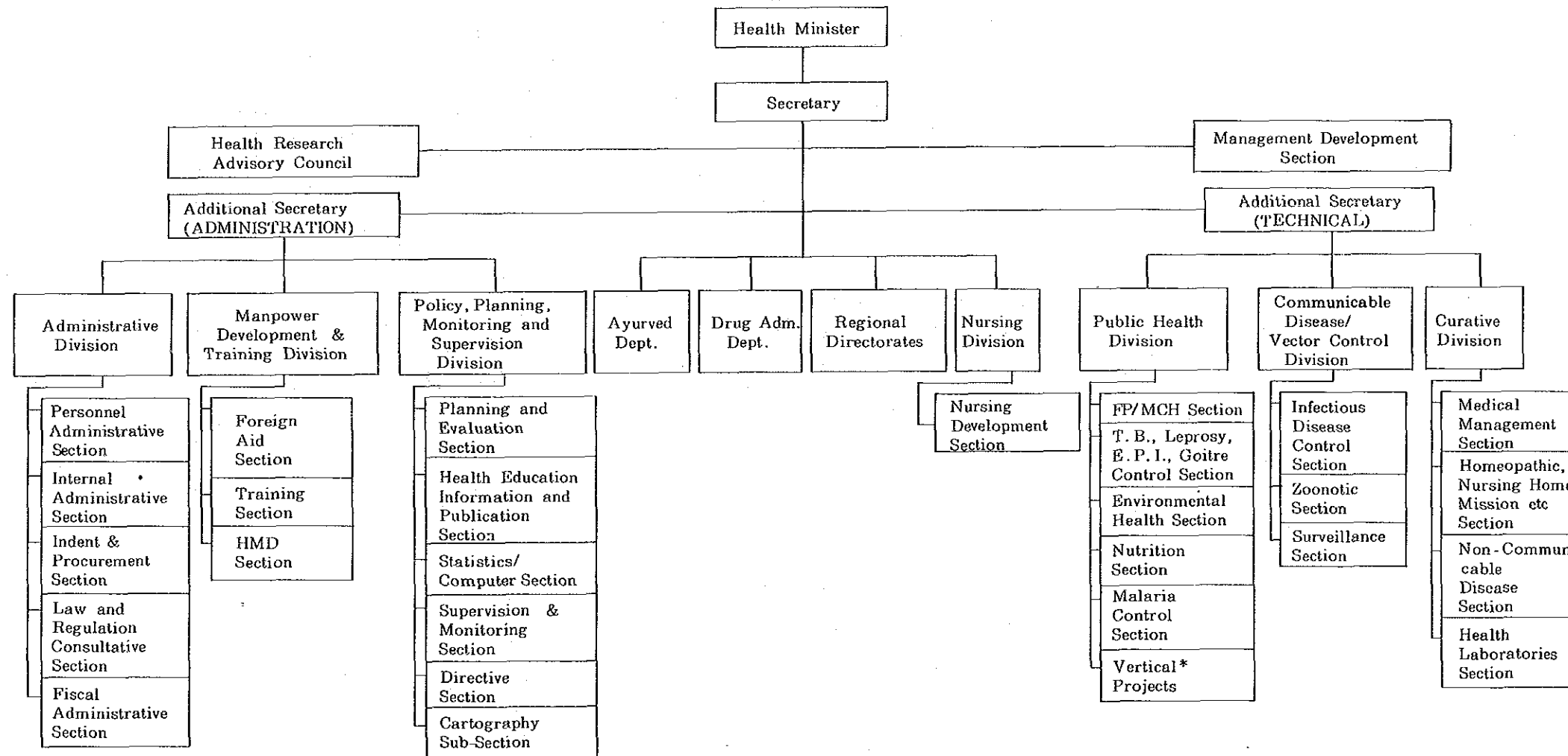
Organogram of the Ministry of Health, Regional Health Directorates, District Public Health Offices and Health Posts

保健省組織図 — 中央レベル

(保健省機構改革後, 1987年7月以降~)

CHART I

MINISTRY OF HEALTH



• Projects, under the Health Ministry, will be gradually integrated.



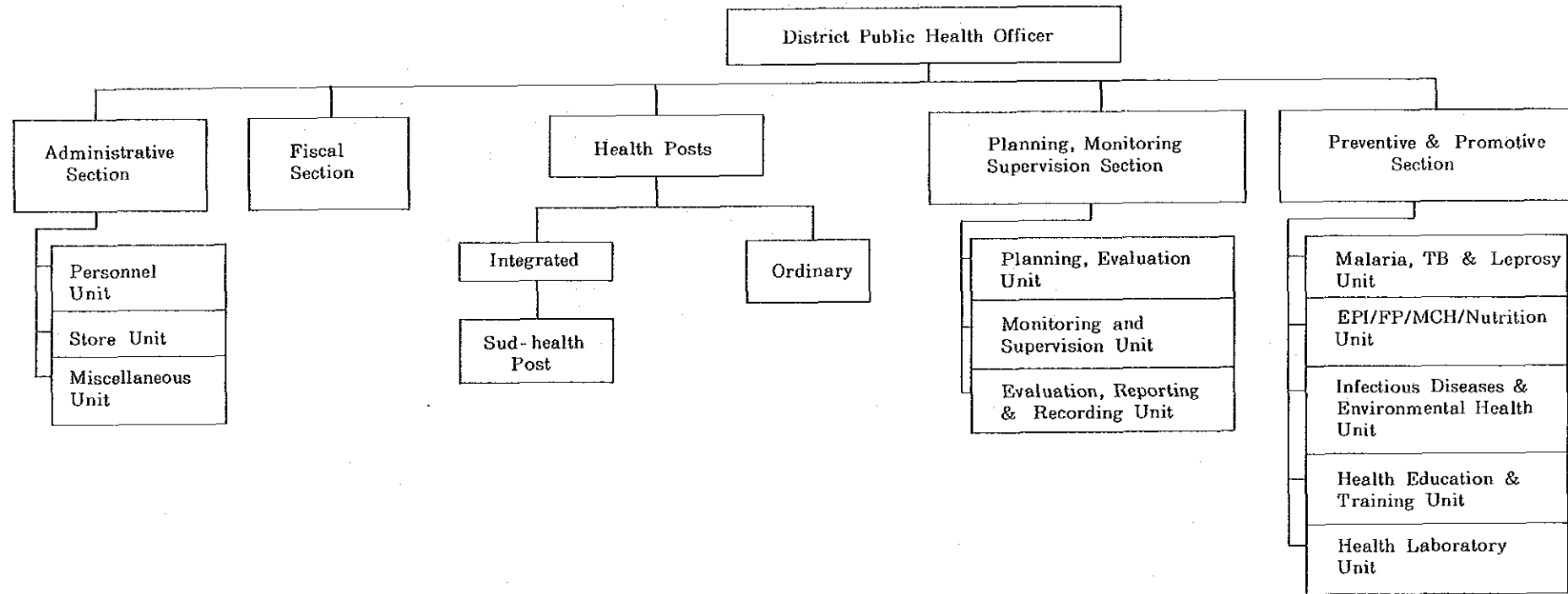
Organogram of the Ministry of Health, Regional Health Directorates, District Public Health Offices & Health Posts

保健省組織図 — 地方レベル

(1987年7月以降～)

CHART IV

DISTRICT PUBLIC HEALTH OFFICE

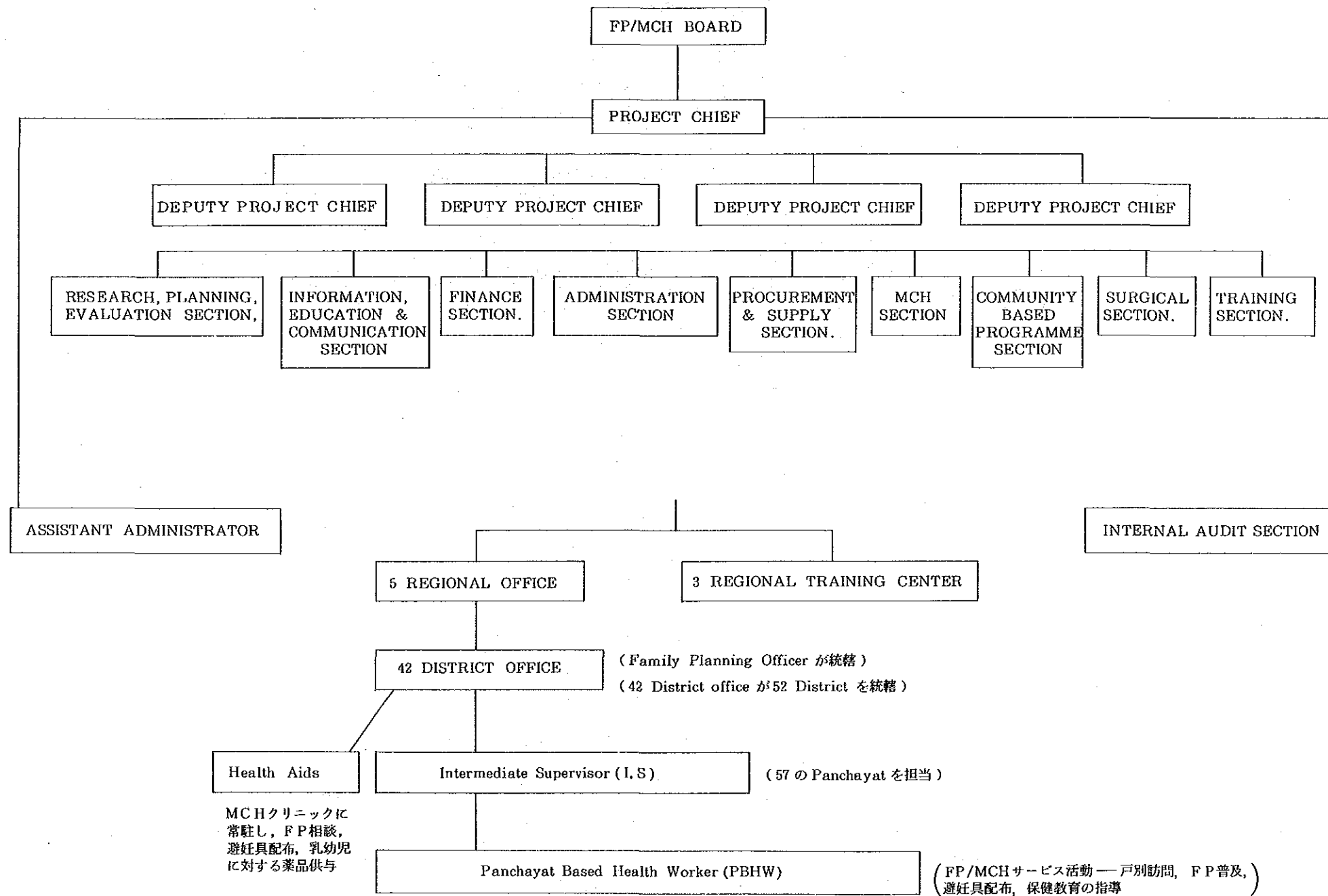




FP/MCH PROJECT ORGANIZATION CHART

FP/MCHプロジェクト組織図

(1986年～1987年7月)











श्री ५ को सरकार  
स्वास्थ्य मंत्रालय

नेपाल परिवार नियोजन



मातृ शिशु कल्याण योजना

श्री ५ को सरकार  
केन्द्रीय कार्यालय  
क.स.प. उच्च स्तरिय  
(क.स.प. परिवार नियोजन)

को. नं.

- २१२०६७ केन्द्रीय कार्यालय, टेकु
- २२५१५५ योजना प्रमुख
- २१२७३१ सजिकल शाखा,  
घाणोक शाखा
- २१२०५१ मूल्यांकन शाखा
- २१३२४० सूचना शाखा  
एम. सी. एच. शाखा
- २१४१४७ सप्लाय शाखा
- २१३७०५ सजिकल युनिट,  
रामशाह पथ,  
सूचना शाखा,  
रामशाह पथ, काठमाडौं।

पत्र संख्या :- २९  
प्राप्त पत्र संख्या र मिति :-

विषय:- महाशाखा ।

**अत्यन्त जरूरी**

मिति २०४७।४।२ ... ..

श्री न. प. नि. प्रो. वि. वि. शाखा उपशाखा, युनिट  
टेकु । रामशाहपथ ।

केन्द्रमा एकीदेशीय आयोजनाका रूपमा संचालन भई रहने परिवार नियोजन तथा मातृ शिशु कल्याण योजना, शैली उन्मुलन एवं र बिस्वारित शीष व. योजनालाई २०४७। साल आरम्भ १ गते दक्षि मन्त्रालयको महाशाखाको रूपमा संचालन गर्ने श्री ५ को सरकार म. म. को मिति २०४७।३।२५ को निर्णय भएकोले निर्णय अनुसार गर्न गराउन हुन अनुरोध गरिन्छ । भनी स्वास्थ्य मन्त्रालयको प. क्र. २०४६।४७ स्वा म. च. नं. १६ मिति २०४७।३।३१ को पत्र प्राप्त हुन आएको ले सम्बन्धित शाखा उपशाखाहरूलाई जानकारीको लागि निर्देशानुसार अनुरोध गर्दछु ।

*(Signature)*  
सहायक सचिव

According to the decision made by the cabinet on July 12, 1990, it is hereby notified that all the integrated projects like FP/MCH, Malaria Eradication and Extended Immunization Programme will be conducted as the Division under the Ministry of Health effective from July 16, 1990.

## 最近のネパール情勢について

- 1978年 「ネ」「印」の通商・通過条約の締結。（ネパールの要求でインドのジャナタ政権は2つの独立した条約に改正。）
- 1980年 パンチャヤト制度の存否を問う国民投票。55%の支持を得て同制度の存続を決定。
- 1981年 パンチャヤト制度の下での国会議員総選挙。（政党の選挙ボイコット）
- 1985年 民主化要求運動の活発化。会議派と共産党が共同行動をとれず失敗。
- 1986年 パンチャヤト制度の下での第2回国会議員選挙。（政党の選挙ボイコット）
- 1987年 4月；ネパール在住のインド人（インド政府の公式見解では15万人）に労働許可証の携帯義務の適用。  
世銀・アジア開発銀行により資金提供されたインド国境地域の土木事業に中国の参入を承認し、契約の提供  
6月；インド産品の1部に通常関税50%と特別関税55%を追加課税、一方中国には60%の関税引き下げを実施。
- 1988年 夏；ネパールは中国より地对空ミサイル 高性能の37ミリ高射砲の購入。  
末；ガンジーインド首相の中国訪問。
- 1989年
- 3/19 医薬品・食塩等の生活必需品のインドからの供給ストップ。
- 3/23 「ネ」「印」の通商・通過条約（78年に新条約が締結され、毎回5年毎に更新してきたが、2回目の更新期であった88年には両国の改正交渉がまとまらず89年3月末までに延長していた。）の失効。  
石油製品のインドからの供給ストップ。  
カトマンズ市内23箇所の給油所のうち7箇所のみオープンしており、一般の自動車は2週間に10リットルの配給になる。  
インドはネパール国境15箇所の貨物用検問地点のうち2箇所（Raxaul/Jogbani）を除いて閉鎖。
- 4/4 大学で反インドデモがあったため、大学を2箇月間閉鎖。
- 4/9 ガソリン・ディーゼルは1週間に6リットルの配給になる。
- 4/16 ガソリン・ディーゼルは1週間に8リットルの配給になる。
- 5/14 政府による22点の経済方針（「ネ」「印」の通商・通過条約の失効に伴い、生じて来た困難を打開するため基本的な物資とサービスを供給することにより国民生活の正常化及び経済と発展段階における不利な効果を最小限にするための経済方針。この方針の21-c項には政府付属機関は向こう5箇年間の車両の輸入停止を明記。）の発表。

- 6/16 ガソリン・ディーゼルは1週間に10リットルの配給に改善された。
- 8月 ネパール国民会議派は“Awaking Campaign”（覚醒運動）を全国規模で展開。
- 1990年
- 1/18-20 ネパール国民会議派（非合法）の会議にインドのジャナタ党議員のチャンドラシェカー他国民会議派・共産党（C P I・C P M）のメンバー11名が参加。
- 2/18(日) ネパールの祭日“民主主義の日”（故トリブバン国王がラナ独裁政権から民主主義を勝ち取った40周年記念日）。全国各地で民主化要求デモ隊と警察隊との衝突により、死者7名負傷者約150名。
- 2/19(月) 全国一斉のゼネスト。バクタプールで民主化要求デモ隊と警察隊との衝突により死者3名負傷者約25名。
- 2/20(火) ジャナカプールで民主化要求デモ隊と警察隊との衝突により死者3名。  
18・19・20日の3日間で死者33名（非公式統計）。
- 2/25(日) 民主化要求グループが“ブラックサンデー”と称する民主化要求のための統一行動。
- 3/2(金) 民主化要求のためのゼネスト。一部で焼き打ちや投石。
- 3/30(金) カトマンズ近郊で学生を中心として1万人以上が反政府デモを行ない、警官隊と衝突しデモ隊の2名が死亡。政府は首都などの各大学を閉鎖。ウパダヤ外相が辞表。
- 4/1(日) 国王は閣僚3名及び次官ら6名の更迭を発表（タバ保健大臣は社会福祉大臣に異動、保健大臣にはガウチャンが任命、ウパダヤ外相の後任にはバスネット水資源相が任命）。
- 4/2(月) カトマンズに隣接するパタン市で1万人以上の市民が民主化要求デモに参加、警官隊と衝突。（3人が死亡）
- 4/5(木) 官公庁職員による複数政党制・民主主義に実施を求めて退職放棄などの抗議行動を行った。
- 4/6(金) 全国一斉のゼネストの実施。（カトマンズでは民主化運動始まって以来最大の10万人が参加、警察隊の発砲により約50人の死亡）  
国王の声明。（シュレスタ内閣の更迭と内閣の一新、チャンド新首相他3名の大任の起用、政治改革諮問委員会の設置）  
空港閉鎖。カトマンズ市では夜間外出禁止令の実施。
- 4/7(土) カトマンズ・パタン市で終日外出禁止令の実施。  
日本政府による日本人の渡航自粛勧告。
- 4/8(日) カトマンズ・パタン・バクタプール・ブトワル市で終日外出禁止令の実施。  
（パタン地区では11:00-13:00、カトマンズ地区では13:00-15:00まで外出許可）

23:00国王の声明発表。(シュレスタ内閣の更迭。チャン暫定内閣の発足。  
複数政党制・憲法の改正・民主主義の復活の容認) 外出禁止令の解除。

1990年

- 4 / 9 (月) 国王の民主化宣言により、民主化要求グループは予定していた“憲法を焼く日”の大集会の中止。市民・学生による祝賀行進。
- 4 / 11 (水) 検閲の廃止。
- 4 / 13 (金) 民主化運動の最高指導者ガネシュ・マン・シン氏と国王の会談。  
(民主化要求グループの8項目統一要求の検討)
- 4 / 14 (土) 新年(ネパール歴の2047年バイサル月1日で新年に当たる)  
国王が民主化運動の犠牲者に哀悼の意を表明。政府は国王が民主化運動による死亡者に見舞金を支払う旨発表。
- 4 / 16 (月) 9:00国王の声明。(パンチャヤト制度の解散。チャンド内閣の総辞職)  
民主化運動の最高指導者ガネシュ・マン・シン氏と国王の会談。新暫定政権の首相にネパール会議派のK・P・バタライ氏が決定。
- 4 / 17 (木) 新暫定政権の首相候補ネパール会議派のK・P・バタライ氏及び民主化運動の最高指導者ガネシュ・マン・シン氏と国王の会談。
- 4 / 18 (金) 11名から成る新暫定政権閣僚名簿の発表。(ネパール会議派のK・P・バタライ氏及び民主化氏は首相・外務・国防・宮内の各相を兼任。保険大臣にはトリブバン大学公衆衛生学部長で民主化運動活動家マツーラ・シェレスタ氏を任命。)
- 4 / 19 (木) バタライ新政権の発足。各閣僚の認証式の実施。  
(バタライ暫定内閣の急務とする2点は次のとおり。 1) 90日以内の新憲法の改定。 2) 1年以内の自由な政党活動による総選挙。また、次の14項目の目標を掲げている。)
1. 国王の憲法上の地位の確立。
  2. 反民主主義法の廃止。
  3. 民主主義法の確立。
  4. 自由選挙。
  5. 自由化運動の法律の確立。
  6. 行政改革。(国王任命による県知事等の廃止。軍隊・警察の掌握。)
  7. 生活条件の改善。
  8. 経済危機の打開。
  9. 報道学問の自由。
  10. 女性の地位の向上。
  11. 政治犯の釈放。

12. 非同盟外交。
13. 国民の団結の自由と平等。
14. 少数民族への関心。

1990年

- 4 / 21(土) 王政と旧体制のパンチャヤト支持派による新政府に対する撓乱作戦で、押し入り強盗・略奪事件が多発。
- 4 / 22(日) 協力隊員2名が夜間警備中の市民の自警団より反民主勢力と間違われて負傷。
- 4 / 23(月) 本プロジェクトオフィスのあるテク地区にて警察官と民衆による衝突により警察官の6名が死亡18名が負傷。  
首都圏を管轄するバグマティ県庁と隣接するカトマンズ市交通局の庁舎が焼き打ちされた。(汚職などの証拠隠滅のため王政と旧体制のパンチャヤト支持派により焼き打ちされた。)  
カトマンズ市で20:00-6:00まで外出禁止令の実施。
- 4 / 24(火) カトマンズ市で19:00-5:00まで外出禁止令の実施。
- 4 / 25(水) カトマンズ市・周辺地域で19:00-5:00まで外出禁止令の実施。  
国王による声明。(内閣支持の呼びかけ)  
一部の警察官がカトマンズ市内の警察署からライフルなどトラック4台分の武器を奪取。
- 4 / 26(木) カトマンズ市・周辺地域で19:00-5:00まで外出禁止令の実施。
- 4 / 27(金) カトマンズ市・周辺地域で19:00-5:00まで外出禁止令の実施。  
村落・郡・県の地方パンチャヤト制度の解体を正式に発表。
- 4 / 28(土) カトマンズ市・周辺地域で20:00-5:00まで外出禁止令の実施。  
カトマンズ近郊の3つの郡よりカトマンズへ、多数の警官を移送。
- 4 / 29(日) カトマンズ市・周辺地域で20:00-5:00まで外出禁止令の実施。  
ポカラにおいて郡長オフィス及びパンチャヤトオフィスの焼き打ちにより2名の死者。
- 4 / 30(月) カトマンズ市・周辺地域で20:00-5:00まで外出禁止令の実施。  
バンディ大蔵大臣はバッタライ首相の特使としてV・P・シンインド首相宛書簡の手交とデリーで開催予定のADB会議の出席のため渡印。ポカラにおいての軍の出動。
- 5 / 1(火) カトマンズ市・周辺地域で21:00-4:00まで外出禁止令の実施。
- 5 / 2(水) カトマンズ市・周辺地域で21:00-4:00まで外出禁止令の実施。  
バッタライ首相と39名のネパール報道関係者との会見。
- 5 / 3(木) カトマンズ市・周辺地域で21:00-4:00まで外出禁止令の実施。
- 5 / 10(木) カトマンズ市においては外出禁止令の解除。

- 5/13(日) カトマンズ周辺地域においても外出禁止令の解除。
- 6/8-10(金-日) バッタライ首相のインド訪問。
- 6/10(日) バッタライ首相とインド・シン首相との共同声明発表  
1) 7月1日を期して両国関係を87年4月の状態にする。 2) 国防に関する  
ことは事前協議をする。
- 6/14(木) ネパールによるインド製品への追加関税の撤廃。
- 6/18(月) インドによる物資通過地点であるインド国境2箇所/SUNALI, NEPALGUNJの  
全面解放。
- 7/13(金) Budget Speechの発表(予算総額/19,791,714,000ルピー)
- 7/15(日) ネパール会計年度(1990/1991)の開始。



JICA